

# おとずかい

楽譜を見るだけでオタマジャクシやナメクジを思い出す人も多いかと思います。わたしもそのひとりです。そして、音楽と聞いただけで語学で少々習った文法の退屈さがよみがえる人もいられるでしょう。音楽に理屈はいらない。まったく同感です。理屈は後づけの説明にすぎません。

泣き言を並べるのが悔しいから音楽通論や楽典に手を出せばカタカナまじりの用語で混乱。読まなきゃよかったという後悔も出てきます。日本には日本の音楽があると居直っても、生まれた時から英語漬けで、英米の発想にどっぷりつかっています。

それはともあれ音楽用語のガサツなこと。幹になるから幹音(かんおん)、根っ子になるから根音(こんおん)。音の長さに至っては音価(おんか)。何だよこりゃ！

こちとら、音楽なんて感覚的だから感音、キラキラ輝くからネオン、それにしても音価って何だ！

音符に至っては、音の長さを示す「たま」が符頭(ふとう)、音の速さを示す「はた」が符鉤(ふこう)、それを結ぶ「ぼう」を符尾(ふび)ときた。こんな言葉はワープロの変換に出てこないぞ。

こまごましたことは《道楽親父の音楽ガイド》でふれています。楽譜を眺めて後ずさりしない程度の音楽用語を図解しますので参考にしてください。これは簡単に書かれている入門書で理解できなかった親父の解説です。

楽器に興味がない方は各章の初めに付けたあらましを読んでください。音楽解説書のどこを読んだら良いかの見当がつかます。なぜそれにふれたがらないかもわかるでしょう。面倒なものを避けるのは専門家も同じです。こんなへたくそな図しか描けないのかと笑っていただくのもけっこうです。楽譜作成ソフトをいくつも持ちながら、あえて使わずにエクセルで仕上げたブザイクな図もあります。

図解した内容は当たり前すぎてつまらない内容かもしれません。また、どうでもいいことに寄り道しています。初心者がどこでつまづき、どんなことに関心を持つのか参考にさせていただければ幸いです。

インターネットには次のような懇切丁寧な音楽解説サイトもあります。説明内容に疑問を感じた方はそこでお確かめください。作りきれなかった楽譜図を引用し、改変して申しわけありません。

●音楽理論の基礎: ヤマハ楽器が開設している図解と演奏が豊富なサイトです。

<http://musical-grammar.com/note005.html>

●楽典: ヴェクターが開設しているクラシック中心のサイトです。懇切丁寧でやや煙たいくらいですがわかりやすい解説です。<http://www.ncnmusic.com/>

●楽譜の読み方: シンコーミュージックが開設しているサイトです。かゆいところを懇切丁寧に図解しています。<http://www.shinko-music.co.jp/gigs/5sen-2.html>

<b>もくじ</b>	各章にはあらましを付けています。	ページ
<b>1用語解説</b>		5
(1)これだけ知っていれば楽器いじりはできる		6
(2)これを知っておけば話題にこと欠かない		7
(3)わかっているようでわからないジャンル		8
<b>2楽譜を眺める</b>		9
(1)楽譜の部品		10—11
(2)楽譜を例にして説明すれば		12—13
(3)覚えていますかこの記号		14
(4)繰り返し記号		15
<b>3リズム</b>		16
(1)拍子の基本		17
(2)拍とリズムを図解する		18
(3)多数のリズムが生じる要素		19
(4)強拍と弱拍		20
(5)シンコペーション		21
<b>4音階と音程</b>		22
(1)音名・音階・音程		23
(2)音の並び・異名同音		24
(3)五度圏を理解するための音程		25
(4)転回音程		26
(5)進行を理解するための用語		27
(6)長音階と短音階		28
(7)3つの短音階を比べる		29
(8)＃やフラットの攻略法		30
(9)調号の早見表		31
(10)音階と変化記号		32—33
<b>5和音</b>		34
(1)和音と五度圏		35
(2)和音のしくみ		36
(3)基本的なコードの区分		37
(4)ダイアトニック・コード		38
(5)主要三和音		39
(6)近親調		40
(7)変化記号の並び		41—42
<b>6ギターの基本知識</b>		43
(1)名前と板目		44
(2)ドレミはどこだ		45—46
(3)主要コード表		47

## 掲載図解一覧

- |      |             |                   |                   |
|------|-------------|-------------------|-------------------|
| 第2章  | 2-1         | 五線譜               |                   |
|      | 2-2         | 楽譜の構成             |                   |
|      | 2-3         | 音符のパーツ名           |                   |
|      | 2-4         | 喜びの歌:ベートーベン作曲     |                   |
|      | 2-5         | キラキラ星:フランス民謡      |                   |
|      | 2-6         | 覚えていますかこの記号       |                   |
|      | 2-7         | 繰り返し記号の7パターン      | *「楽典♪音楽理論の基礎」から引用 |
| 第3章  | 3-1         | 弱起                |                   |
|      | 3-2         | 主な拍子の例            |                   |
|      | 3-3-1       | テンポ               |                   |
|      | 3-3-2       | 拍                 |                   |
|      | 3-3-3       | 拍節                |                   |
|      | 3-3-4       | 拍子                |                   |
|      | 3-4         | リズム               |                   |
|      | 3-5         | メロディと和音           | *「楽典♪音楽理論の基礎」から引用 |
|      | 3-6-1       | 拍の垂直移動            |                   |
|      | 3-6-2       | 拍の水平移動            |                   |
|      | 3-6-3       | 半円スキップ移動          |                   |
|      | 3-6-4       | 短いスキップ移動          |                   |
|      | 3-7-1       | 2拍子の強弱            |                   |
|      | 3-7-2       | 3拍子の強弱            |                   |
|      | 3-7-3       | 4拍子の強弱            |                   |
|      | 3-8-1       | 強拍先行              |                   |
|      | 3-8-2       | 弱拍先行              |                   |
| 3-9  | 弱起とシンコペーション |                   |                   |
| 3-10 | タイとシンコペーション |                   |                   |
| 3-11 | 休符とシンコペーション |                   |                   |
| 第4章  | 4-1         | 音名の呼び方            |                   |
|      | 4-2         | 音階の構造             |                   |
|      | 4-3         | 音程                |                   |
|      | 4-4         | 音階と音名             |                   |
|      | 4-5         | 音の並び              |                   |
|      | 4-6         | 異名同音              |                   |
|      | 4-7         | 音程の数え方            |                   |
|      | 4-8         | 5度移動をプラスで並べる      |                   |
|      | 4-9         | 5度移動をマイナスで並べる     |                   |
|      | 4-10        | 転回音程              |                   |
|      | 4-11        | 転回音程と度数           |                   |
|      | 4-12        | 音程の数え方の例外:増4度と減5度 |                   |

- 4-13 単一声部の進行パターン
- 4-14 2声部間の進行パターン
- 4-15 長音階と短音階の関係
- 4-16 3つの短音階 \*「楽典♪音楽理論の基礎」から引用
- 4-17 音程からみた短音階の違い
- 4-18 同じ短音階でも和音の構成が異なる
- 4-19 調号がなぜこの位置にあるの
- 4-20 調性を示す#とbの並び
- 4-21 シャープ系:プラス5度、マイナス4度移動
- 4-22 フラット系:プラス5度、マイナス4度移動
- 4-23 調号の早見表(五度圏の利用)
- 4-24 英語表記の五度圏
- 4-25 ABC順のダイアトニック・スケール【長音階】
- 4-26 ABC順のダイアトニック・スケール【自然短音階】
- 4-27 五度圏前提のダイアトニック・スケール【長音階】
- 4-28 五度圏前提のダイアトニック・スケール【自然短音階】
- 第5章 5-1 和音と転回形
- 5-2 いずれも同じ和音:トニック(T)・サブドミナント(S)・ドミナント(D)
- 5-3 五度圏:英語・日本語の2図
- 5-4 和音の仕組み
- 5-5 和音の構成 \*「楽典♪音楽理論の基礎」から引用
- 5-6 基本的なコードの区分
- 5-7 コードネームの表記
- 5-8 3和音のダイアトニック・コード
- 5-9 4和音のダイアトニック・コード
- 5-10 ダイアトニック・コードを分解すると
- 5-11 主要三和音の結びつき
- 5-12 近親調:主調、属調、下屬調、平行調、同主調
- 5-13 ABC順のダイアトニック・コード【長音階】
- 5-14 ABC順のダイアトニック・コード【自然短音階】
- 5-15 五度圏前提のダイアトニック・コード【長音階】
- 5-16 五度圏前提のダイアトニック・コード【自然短音階】
- 第6章 6-1 ギター各部の名称 \*石橋楽器のホームページから引用
- 6-2 ギターの板目の音階表
- 6-3 ギターでドレミを弾く
- 6-4 弦をまたいだドレミのブロック
- 6-5 ギターで五度圏を探す
- 6-6 ギターの主要コード表

# 第1章のあらまし

この章は3つに分かれています。

第1は、楽器を弾くために最低必要な音楽用語です。読み書きで言えば「あいうえお」や「ABC」にあたります。

第2は、音楽を通じた話題に登場するもので知らなくても良いものです。知っていれば幅が広がり、相手が言うことが多少理解できる程度です。

第3は、日頃なにげなく使われている音楽ジャンルの用語です。音楽評論家や愛好家があれこれ語る割にもやもやとして理解できない用語を勝手に定義しています。

音楽はこのほかにも多くの話題と用語があります。それはあなたがまとめてください。

## ●根っ子や幹にしぼる

音楽に限らずどんな世界にも大きな枠があります。細かく分解すればきりがありませんが、根っ子や幹(みき)に当たる部分にしぼっています。

## ●技術に立ち入らない

ここでふれるのはゴルフで言えばボールを前に飛ばすためのスイングだけです。横や後ろにボールを飛ばしてまわりの人に迷惑や危険をまき散らさない程度です。楽器の演奏にも、やって良いことと悪いことのほかに、こうした方が滑らかになるああした方が印象深いという技術もあります。とはいうものの技術に関してはふれようがありません。

## ●他の章との関連

楽器いじりに関しては、「基本用語」、「拍子とリズム」、「音階と調」、「和音」にしぼりました。

基本用語は第2章の「楽譜を眺める」の基となるものです。どんな音楽入門書でも最初にふれる煙たい内容でたちまち忘れてしまう用語ですが曖昧に覚えるとわからなくなるものです。

拍子とリズムは言葉の定義にこだわりました。拍子やリズムはあれこれ語られる割に用語が混乱しています。感覚的に語られるからわかりにくい面があります。そこで拍(ビート)とテンポ(パルス)、拍子とリズムの違いを明確にしました。

音階と調は通論や理論書で最も多く、また細かく説明されています。多くにふれて混乱させるので必要なことしぼりました。

和音は基本的な用語にしぼりました。構造に限って、和音の進行パターンにふれていません。和音の進行パターンはわたしが最も関心を持ち、あれこれ調べているものですが深入りを避けました。

その他の用語は図解していません。「音と音律」は「道楽親父の音楽ガイド」で図解しています。

第6章のギターの基礎知識は「道楽親父の音楽ガイド」の抜粋です。

これだけ知っていれば楽器いじりができる \*は図解をしています

### 基本用語

- 音高(ピッチ)・・・音の高さ。五線譜の位置表示
- 音価・・・・・・・・音の長さ。音符の種類で表示
- \*五線譜・・・・・・・・音の高さと長さの流れを表示
- \*音名・・・・・・・・一定の高さの音の名前
- 幹音(かんおん)・・・#や♭が付かない音
- 派生音・・・・・・・・#や♭がつく音
- \*半音・・・・・・・・音の最小単位
- \*全音・・・・・・・・半音二つ
- \*音符(ノート)・・・音の高さと長さを表示
- \*付点・・・・・・・・ある音を1/2、1/4ずつ増加
- \*休符(レスト)・・・音を出さない表示
- \*音部記号・・・・扱われる音の高さを示す
- \*ト音記号・・・・・・・・高音部記号、G(ト)=ソ
- \*ヘ音記号・・・・・・・・低音部記号、F(ヘ)=ファ
- \*小節・・・・・・・・時間の流れを区切るもの
- \*変化記号・・・・一時的な音の調整を行う
- \*シャープ(♯)・・・音を半音上げる記号
- \*フラット(♭)・・・音を半音下げる記号
- \*ナチュラル・・・変化を基に戻す記号
- \*拍子記号・・・・数字、♩(2/2)、C(4/4)
- 平均律・・・・・・・・西洋音楽の基礎となる音律
- \*異名同音・・・・名前は違っても同じ高さの音
- \*繰り返し記号・・・終止線、D・S、D・Cなどで循環省略記号・・・同じ・小節の繰り返しなどに用いる

### 音階と調

- \*音程(インターバル)・・・音の高さの幅(初音算入)
- \*度(デグリー)・・・・・・・・音の高さを示す数
- \*完全音程・・・・・・・・1、4、5、8度
- \*長音程・・・・・・・・2、3、6、7度が長
- \*短音程・・・・・・・・2、3、6、7度が短
- \*増音程・・・・・・・・完全と長音より半音多い
- \*減音程・・・・・・・・完全と短音より半音低い
- \*ユニゾン・・・・・・・・1度のこと(0度はない)
- \*オクターブ・・・・・・・・8度のこと
- \*三全音(トライトン)・・・増4度と減5度で不安定
- \*音階(スケール)・・・音を一定の規則で並べたもの
- \*ダイアトニック・スケール・・・全音で並べた音階
- 旋法・・・音階の中でどの音を中心にするかの違い
- \*調(キー)・・・・・・・・音階の始まりの音(主音)
- \*長音階(メジャー・スケール)・・・・長調の音階
- \*短音階(マイナー・スケール)・・・・短調の音階
- \*自然短音階(ナチュラル・マイナー・スケール)
- \*和声短音階(ハーモニック・マイナー・スケール)
- \*旋律短音階(メロディック・マイナー・スケール)
- \*調号・・・・・・・・#や♭が曲全体に反映
- \*近親調(関係調)・・・・結びつきやすい調
- 転調・・・・・・・・一時的な変化
- 移調・・・・・・・・音階全体を変化させる

### 拍子とリズム

- \*リズム・・・・・・・・音の時間経過のパターン
- \*拍(ビート)・・・・・・・・リズムの単位(相対的な速さ)
- \*テンポ・・・・・・・・拍の絶対的な速さ
- \*強拍と弱拍・・・・西洋音楽の拍には強弱がある
- \*拍子・・・・・・・・拍の組み合わせ
- \*単純拍子・・・・2拍子系、3拍子系
- \*複合拍子・・・・2つまたは3つをひとかたまりにした拍【注】4拍子は2拍子の複合拍子です。
- \*混合拍子・・・・変拍子。5拍子、7拍子など
- \*アクセント・・・・拍の強弱の位置を示す
- \*シンコペーション・・・アクセントの位置をずらすこと
- \*弱起(アウフ・タクト)・・・不完全小節から始まる曲
- \*タイ・・・・・・・・同じ高さの音をつなげる
- スラー・・・・・・・・異なる高さの音をつなげる
- \*連符・・・・・・・・ある音を1/3より細かく分ける
- \*連鉤(れんこう)・・・音符を結んで見やすくする
- バックビート(裏拍)・・・4ビート(ジャズ)、8ビート(ロック)、16ビート(フュージョン)など【和声造語】

### 和音(コード)

- \*和音(コード)・・・高さのちがう2個以上の音の組み合わせ
- \*トライアド(三和音)・・・1度、3度、5度音の和音
- \*コードネーム・・・和音の略記法
- \*主要三和音・・・主和音、属和音、下屬和音
- 副三和音・・・・上記以外の和音
- \*根音(こんおん)・・・ルート。和音の基本となる音
- \*主音・・・・・・・・I番目の音。調の基本となる音
- \*属音・・・・・・・・V番目の音
- \*下屬音・・・・・・・・IV番目の音
- \*導音・・・・・・・・VII番目の音。主音に結びつく性向
- テンションコード・・・9番目、11番目、13番目の音
- \*トニック・・・・・・・・主和音。安定感が高い
- \*ドミナント・・・・属和音。不安定感が多い
- \*サブドミナント・・・下屬和音。やや不安定で変化する
- \*ケーデンス(カデンツ)・・・終止形。
- 代理和音・・・・同じ調の副和音を主要三和音に代用
- 借用和音・・・・他の調の和音を臨時的に用いること
- ドミナント・モーション・・・・ドミナントからトニックへの進行。強進行ともいう。
- 半進行・・・・・・・・ある音からドミナントへ進行すること
- ツー・ファイブ・・・・・・・・代理和音を使った強い進行
- セカンダリー・ドミナント・・・他の調を借用してドミナントモーションを作る(同じ調のドミナントを除く)

## これを知っておけば話題にこと欠かない

### 音と音律

音の三要素……高さ、大きさ、音色  
 音の物理的特性……媒介物を通して伝わる波  
 音の高さ(音高)……周波数で表す  
 純音……ひとつの周波数しかない音  
 複合音……自然に存在する音  
 倍音……複合音に含まれる整数倍の音  
 雑音(ノイズ)……周期性のない音  
 白色雑音……すべての周波数帯域に一樣に周波数成分が拡散している雑音  
 音圧……音の大きさを対数表示(デシベル)  
 音色……倍音のバランスによって違いが出る  
 音律……音高比によって音を相対的に決める  
 ピタゴラス音律……振動数の比で音階を決める  
 純正律……主要三和音が美しく響くよう整数比の改良を行った音律  
 十二律……中国から朝鮮や日本に伝えられた音律。1オクターブが12の半音で構成  
 三部損益法……十二音の算出法  
 平均律……不等分平均律と等分平均律がある  
 12等分平均律……純正音はないが移調が簡易  
 【注】小方厚「音律と音階の科学」、藤枝守「響きの考古学」、小泉文夫「音楽の根底にあるもの」、芥川也寸志「音楽の基礎」などが参考になります

### 日本の音楽(前)

雅楽……上品で正しい音楽を意味する「雅正の楽」の略。平安時代に整理・統合されたもの。  
 俗楽……一般民衆の音楽。  
 声明(しょうみょう)……仏教の法会で歌う音楽  
 能楽……中世に興隆した仮面歌舞劇。立方・(演技)・地謡方(歌唱)・囃子方(演奏)で構成  
 浄瑠璃……語り物芸能。人形劇と三味線  
 歌舞伎……異様な身なりで、異様な振る舞いをする「かぶく」が起源。歌・舞・伎の総合  
 箏曲(そうきょく)……奈良時代に中国から伝来した13弦を「こと」と呼ぶ。江戸時代に幾多の改良  
 尺八……普化宗の虚無僧が法器として使用。  
 明治4年に普化宗が廃止されてから普及  
 三味線……永禄年間に琉球の三線(さんしん)から伝来。「さわり」から生ずる独特の音が特徴  
 【注】小泉文夫「日本の音」、岩波文庫「わらべうた」や「日本民謡集」などが参考になります(続きあり)

### 世界の音楽

ワールドミュージック……世界の諸民族の音楽要素を取り入れたフュージョン系ないし雑種的なピュラー音楽  
 民俗音楽(エスニック・ミュージック)……ある民族集団の民俗的特徴を持った音楽  
 キューバ……マンボ、チャチャチャ、サルサ  
 ブラジル……サンバ、ボサノバ、ランパダ  
 アルゼンチン……タンゴ  
 ジャマイカ……スカ、レゲエ  
 インドネシア……ガムラン(ゴング=どら)  
 インド……シタール(撥弦楽器)  
 アフリカ……ジュジュ(ダンス)、タラブ、マラビ  
 中近東……ウードやカヌーン(楽器)  
 スペイン……フラメンコ、ポレロ  
 ポルトガル……ファド[アマリア・ロドリゲス]  
 ポーランド……ポロネーズ、マズルカ  
 オーストリア……ワルツ  
 フランス……シャンソン

### 西洋音楽の形式とジャンル

通奏低音……バロック時代の演奏習慣。与えられた低音分に即興で行う低音パート。  
 対位法……複数の旋律をそれぞれの独立性を保ちながら同時に重ね合わせて聞かせる作曲法  
 2部形式……楽曲が2つの形式となる形式。前半8小節と後半8小節の16小節が基本。A-A'、A-B  
 3部形式……楽曲が3つの部分からなる形式。A-B-A、A-B-A'  
 ソナタ形式……提示部、転回部、再現部で構成  
 ロンド形式……A-b-A-C-A-B-Aの左右対称の均整。主要主題の繰り返しにエピソードを挿入  
 カノン……模倣対位法を用いた音楽形式。旋律の最も厳格な模倣による作曲技法。  
 フーガ……提示部と間奏部の繰り返し  
 変奏曲……主題を示し、いくつもの変奏を繰り返す  
 循環形式……いくつかの主題を複数の楽章にまたがって用いる形式。  
 ミサ曲……カトリック教会の儀式で歌われる曲  
 オペラ……ギリシャ悲劇の再興を目指して作られた歌劇。  
 協奏曲(コンチェルト)……器楽合奏。  
 交響曲(シンフォニー)……管弦楽用の多楽章からなるソナタ

## わかっているようでわからない

## 日本の音楽(続き)

**民謡**・・・大衆に歌い継がれてきた地方色豊かな小謡。労作歌(舟唄・田植唄・馬子唄・茶摘唄など)、祝賀歌、踊歌など多彩

**長唄**・・・長編の詞章を持つ三味線伴奏の歌曲

**音頭**・・・多人数で歌い踊る民俗舞踊

**浪曲**・・・浪花節の異称。三味線の伴奏で節調を加えた語り物

**おけさ**・・・越後の柏崎、佐渡相川町から流行しはじめた民謡

**わらべうた**・・・童歌。昔から子どもたちに歌われてきた歌。童歌(わざうた)は上代歌謡では人事を風刺する寓意的、比喩的性格を持つ歌謡で子ども向けではなかった。【詳細は町田嘉章・浅野健二編「わらべうた」】

**唱歌**・・・明治以後、初等・中等の学校で教科書用にもちいられ、日本語でうたわれる、主として洋楽系の短い歌曲。文部省だけでなく民間で作成し、検定を受けたものも含まれる。

【詳細は堀内敬三・井上武士編「日本唱歌集」】

**文部省唱歌**・・・明治43(1910)年以後に文部省で編集された教科書用の歌曲。国定ではないがそれに準ずるもの。すべての教科書が国定になったのは昭和16(1941)年の国民学校令から。

**童謡**・・・大正中期に唱歌にあきたりず、児童性を尊重した口語派の芸術的な歌。【詳しくは与田準一編「日本童謡集」】

**こどもの歌**・・・市販されているものは唱歌・童謡・わらべうたをまとめたものが多い。【上笙一郎編「日本童謡事典」も三者を含めて童謡としています】

**歌謡曲**・・・ラジオ・テレビ・レコード・映画などを通じて流布される大衆的歌曲。1980年代までの流行歌。【阿久悠「歌謡曲の時代」など】

**演歌**・・・艶歌。①明治・大正期の流行歌②哀愁を帯びた日本的メロディーとこぶしのきいた唱法

**グループサウンズ**・・・1960年代後半にエレキギターを用い、ボーカルとハイモニーをまじえた若者中心の軽演奏バンド。【詳細は自由現代社「哀愁のグループ・サウンズ大全集」】

**フォーク**・・・1960～70年代に若者の間で流行したギターの弾き語りなどによる素朴な旋律の歌曲。社会批判や私生活をテーマにした歌詞が多い。

**ニューミュージック**・・・1975年以後に荒削りなフォークを脱却し、音楽性を高めた若者向けの

## ポピュラー・ミュージック

**バラード(バラッド)**・・・求愛の意味を持つ感傷的なラブソング。19世紀以降のイギリス・アメリカなどの物語風・感傷的な大衆歌謡

**ジャズ**・・・20世紀初めにアメリカ南部の黒人の民俗音楽をもとにしたブルース・ラグタイムなどが白人の音楽と融合してできたもの。アフター・ビートによる力強いリズムとスイングを持ち、集団的即興演奏(アドリブ)を生命とする。

**モダン・ジャズ**・・・1950年代新傾向のジャズの総称。ビバップ様式を基盤に、旋律・和音・リズムの複雑化、即興性の強調を特徴とする。

**ブルース**・・・19世紀末にアメリカの黒人の間に生まれた大衆歌曲。3行詩型12小節が基本型。多くは個人の苦悩や絶望感を即興的に歌った。

**リズム&ブルース**・・・アメリカ黒人音楽の一種。アフタービートを強調し、叫ぶような調子で歌うもの

**カントリー・ミュージック(カントリー&ウエスタン)**・・・アメリカの大衆音楽のひとつで、郷土愛や日常生活を感傷的に歌ったものが多い。

**ロカビリー**・・・初期のロックン・ロールのひとつ。カントリー・ミュージックの要素が強く、1950年代後半に流行

**ロックン・ロール**・・・黒人のリズム&ブルースと白人のカントリー&ウエスタンとの融合から生まれたアメリカのポピュラー音楽。1950年代後半から流行

**ロック・ミュージック**・・・1960年代半ばにアメリカ・イギリスで始まる。ロックン・ロールなどから発展し、電気楽器を利用し、強烈なビートを持つ

**パンク・ロック**・・・1970年代に体制化・複雑化したロック音楽の反発から始まった攻撃的で強烈な音楽

**フュージョン・ミュージック**・・・1970年代後半にジャズ系のミュージシャンが、ジャズにロックやディスコ、ラテンの要素を取り入れて発展させた

**レゲエ**・・・1960年代後半にジャマイカの音楽家たちが、リズム&ブルースを採り入れてい生み出したダンス音楽スカから発展したもの

**ヒップ・ポップ**・・・1980年代に発生した既成曲を切り張りしたり多重録音して独自のアレンジをしたもの。

以上は音楽事典3冊にほとんど見当たらず広辞苑で得たものです。日本の音楽も同様に洋楽の音楽事典にはまったく見当たりません。詳しいことは、森政人「大衆音楽史」などで確かめてください。



## 第2章のあらまし

五線譜って音の図表なんですね。縦が高さ、横が長さであるだけでなく方向を持ったベクトル量を示しています。ちなみに方向がないのはスカラーですね。

ともあれ、細々した音符や休符に惑わされず、流れをつかめば良いわけです。上っているか下っているかを眺めるだけでも何となくわかりそうなのが五線譜のわかりやすさでしょうか。

山歩きやドライブに大切なのは位置把握です。脇道に入っても元に戻ったり、目的地へ向かう方向をあらかじめ頭に入れておくことです。そのためにあるのが地図です。特徴のある地形や建物にしぼって表示されるからなじめます。楽譜も地図と同じです、地域区分が音部記号(ト音記号やヘ音記号)、製作者の注記が調号、縮尺が拍子記号、そして標高や地形の区分が音符です。

地図を持ち出してびっくりした方がいるかもしれませんがもう少し丁寧に説明します。

等高線の上に地形が示される地図は「高さ」と「長さ」と「方向」の3つを組み合わせた図表です。楽譜も「高さ」と「長さ」と「方向」の3つで構成されるのは同じですね(音高・音価・旋律)。

地図で無視できないのは、磁極のズレ(地磁気の影響で北極や南極に近づくほど方向がずれる)、地形のゆがみ(球面を平面に表示する制約)、作られた年代(測量法の制約や現在とのズレ)、表記する方法(常用度に応じたデフォルメの程度)そして縮尺の程度です。

同じように映る等高線も縮尺によって100m、20m、10mになります。そして、歩く速さとクルマの速さは異なりますから判断のスピードも違うわけです。

いくら地図になじんでいる人でも利用する場面に応じた頭の切り替えができないと判断を誤ります。楽譜も似たところがあります。使い道に応じた頭の切り替えが求められます。

もっと似ているのは「省略」と「強調」です。ひとことで言えばデフォルメです。重要なものを優先し、副次的なものは省略することです。大切なことは五線譜に示し、その他は欄外の表記にとどめています。そのために音符や休符の記号化だけでなく多くの注記となる記号や標語があるわけです。

画面をすっきりさせるために、音符をまとめたり(連鉤=れんこう)、区分したり(連符)、省略記号を使います。そして、目的地に至る経路を示す記号(ダカーポ、ダルセーニョ、フィーネなど)も登場します。

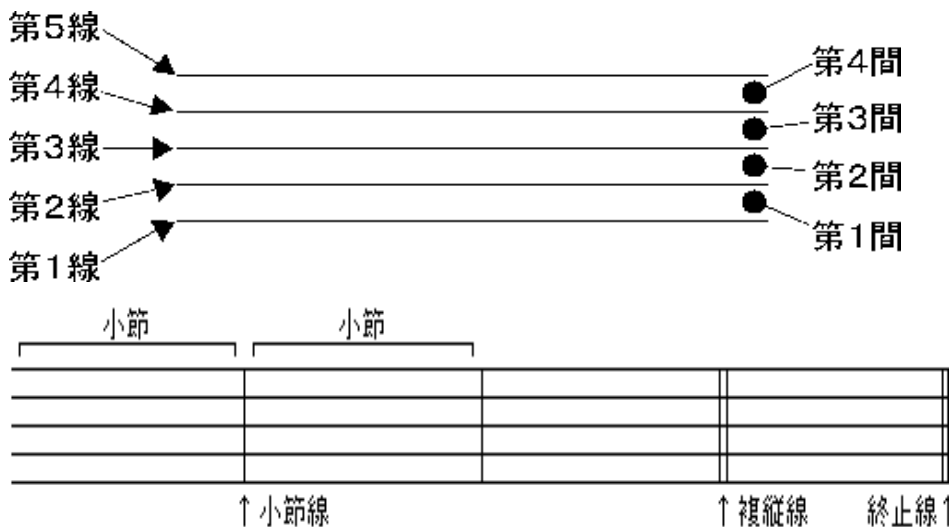
見てわかりやすい工夫が地図や楽譜にあることを知って利用すれば良いのではないのでしょうか。

## 楽譜の部品

### ●五線譜 音の高さと流れを示すもの。線・間・上・下の区別がある。

区切り	小節、縦線、複縦線、終止線
音部記号	五線上の高さを示す記号。ト音記号、ヘ音記号、ハ音記号
音符の種類と長さ	全音符、2分音符、4分音符、8分音符、16分音符など
付点音符	1/2、1/4と増加する
連符	ある音を1/3以上にわけること。上か下に数字がつく。
休符の形と長さ	休符も音符のひとつ
音名	幹音、派生音、異名同音
変化記号の種類	＃(半音上げる)、♭(半音下げる)、ナチュラル(元に戻す)

図2-1



楽譜は五線譜だけではありません。ギターには弦とフレットに位置に合わせた運指を示すタブ譜(タブラチュア)、大正琴には音の高さと長さを示す数字譜、三味線には点と数字を組み合わせた譜面があります。

とらえどころのない音楽を視覚的に示そうと努めたのは西洋音楽に限りません。世界の音楽の記譜法はタブラチュア譜、動機譜、ネウマ譜、表音譜の4つに大別されるそうです。そこには音の出し方や節まわしをいかに伝えるかという思いと知恵が反映しているでしょう。文字や数字や記号が使われたのも演奏者のためではなかったはずです。

マニュアル車からオートマ車、あるいはブラックボックス化したパソコンに慣れた現代人には五線譜も過去の遺物になるのかもしれない。知らなくても操作し利用できる時代に楽譜など知らなくても和音さえ知っていれば演奏できる。そんな思いはわたしにもあります。

西洋音楽だけが音楽じゃない！ そう考えつつもどっぷり漬かっていて雅楽ほとんど知りません。音の高さと大きさと拍(ビート)に定着させ時間の流れでとらえる西洋音楽の定量的とらえ方に親しみを感じる始末です。ギターの弦の並びとまったく逆の並びの五線譜に戸惑いながら眺めるのもおもしろいものです。

## ●楽譜の構成

図2-2 これがなければ楽譜じゃない

### ①音部記号

ト音記号(高音部記号)、ヘ音記号(低音部記号)など

### ②調号

長調と短調に#1~7、b1~7、何もなしのCやAm調など

### ③拍子記号

数字(分数の横棒はいらない)または♩(2/2)、C(4/4)

### ④音符・休符

オタマジャクシたちの遊泳  
原則的に小節の中の音符や休符は拍子に一致する

① ② ③

小節

小節線(縦線) = 区切り

複縦線 = 段落

## 音符のパーツ名

図2-3

**ぼう(符尾)**: 符頭と符鉤をつなぐ。音の高さで向きが変わる

**はた(符鉤=ふこう)**: 音や拍の速さ

**たま・あたま(符頭)**: 音の長さ

**てん(付点)**: 長さの追加(1/2、1/4)

## 楽譜を例にして説明すれば

### 喜びの歌とキラキラ星

楽譜は同じ音が何度も繰り返されます。そのパターンを見つけて口ずさんで慣れるのが手っとり早いようです。楽譜にアレルギーを持っていたときはまったく気がつきませんでした。音楽は反復して印象を高めるようです。そこでどんな音楽解説書にも必ず登場する2曲を楽譜付きで説明します。

#### 例1 ベートーベンの《喜びの歌》

原曲はベートーベン作曲の交響曲第9番の一部で年末に思い出されるようです。わたしは中学時代の音楽の時間に口ずさみました。

[前半]ミミファソ ソファミレ ドドレミ ミレレ

[後半]ミミファソ ソファミレ ドドレミ レドド

この曲は前半の4小節と後半の4小節は四分音符がまったく同じです。違いは付点四分音符がミからレに、八分音符がレからドへ、そして二分音符がレからドへ変わるだけです。

いわゆるA-A'のパターンです。そして、音程はドからレの7度の範囲ですから滑らかに口ずさめます。細かいことを言えば同じ音が繰り返され、2度移動で上下に進行しています。

#### 例2 フランス民謡《キラキラ星》

こどもの歌に登場する割に、唱歌や童謡ではなぜか取り上げられないのがフランス民謡のキラキラ星です。もとは18世紀末のフランスのラブソング「あのね、おかあさん」だそうですが、いつの間にかTwinkle, Twinkle, Little, Star(きらめく小さなお星さま)に変わり、日本語詩も武鹿悦子、村野四郎、堀野真一、藪田義雄などがあるそうです。

例に取り上げる楽譜は春畑セロリ監修「やさしくわかる楽譜の読み方」(ナツメ社)のもので、この本はCDがついてわかりやすく、キラキラ星の豊富なアレンジだけでもあきません。

[1行目]ドドソソ ララソ[休] ファファミミ レレド[休]

[2行目]ソソファミミ ミミレ[休] ソソファミミ ミミレ[休]

[3行目]ドドソソ ララソ[休] ファファミミ レレド[休]

よくみれば1行目と3行目はまったく同じ音符の繰り返しです。また、2行目は2小節がまったく同じです。ドドソソの出だしは3度の跳躍進行ですが、その他は2度の順次進行です。

**訂正しました:** 「キラキラ星」の1オクターブ高い表記は混乱させるので、元の音程に戻しています。

また、休符のある音を二分音符にかえました。楽譜は次ページをごらんください。

## 楽譜は同じ音の並びが繰り返される

エクセルで五線譜を作り音符を張り付けましたが  
ブザイクなので楽譜作成ソフトのプリント・ミュージックで  
作り直しました。

図2-4

### 喜びの歌

ベートーベン作曲

ミ ミ ファ ソ ソ ファ ミ レ ド ド レ ミ

ミ ミ ファ ソ ソ ファ ミ レ ド ド レ ミ

図2-5

### キラキラ星

フランス民謡













ド ド ソ ソ ラ ラ ソ ファ ファ ミ ミ レ レ ド

ソ ソ ファ ファ ミ ミ レ

ソ ソ ファ ファ ミ ミ レ

ド ド ソ ソ ラ ラ ソ ファ ファ ミ ミ レ レ ド

覚えていますかこの記号 図2-6

音部記号		ト音記号		ヘ音記号		ハ音記号
変化記号		シャープ		フラット		ニュートラル
		ダブルシャープ		ダブルフラット	/	
拍子記号		二分の二拍子		二分の二拍子		
		四分の四拍子		四分の四拍子	/	

	単純音符	付点音符	休符	連鉤(れんこう)		連符
全						
二分						
四分						
八分						
十六分		略		略	略	
三十二分		略		略	略	略

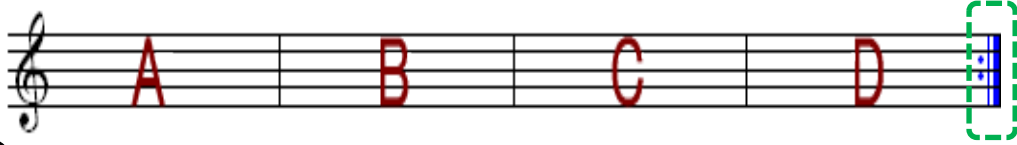


繰り返し記号 ルールを無視すると迷路にはまる

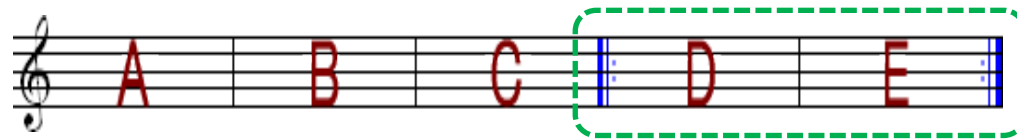
次の図は「楽典 ♪ 音楽理論の基礎」から引用しました。  
<http://musical-grammar.com/note005.html>

図2-7

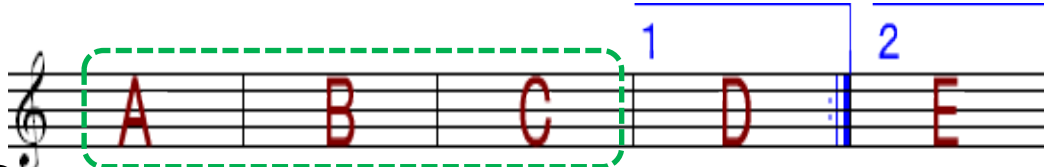
① A⇒B⇒C⇒D⇒A⇒B⇒C⇒D DからAに戻って繰り返す



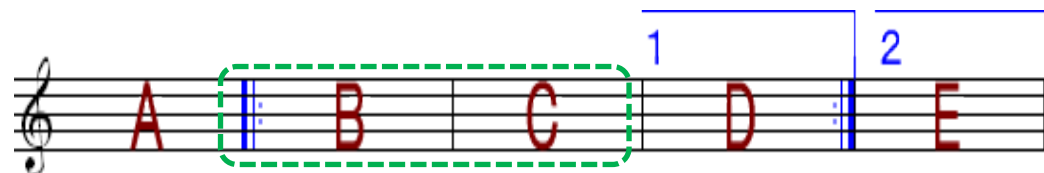
② A⇒B⇒C⇒D⇒E⇒D⇒E DとEを繰り返す



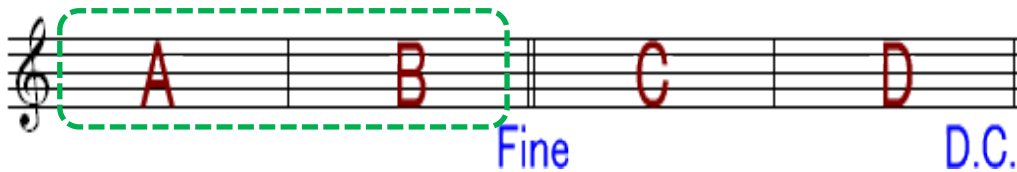
③ A⇒B⇒C⇒D⇒A⇒B⇒C⇒E



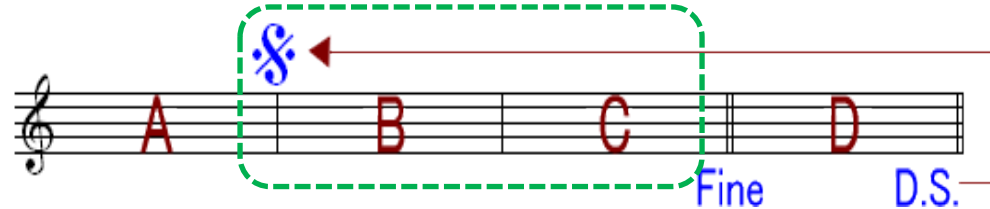
④ A⇒B⇒C⇒D⇒B⇒C⇒E B・Cの繰り返しがEで終わるのに注意



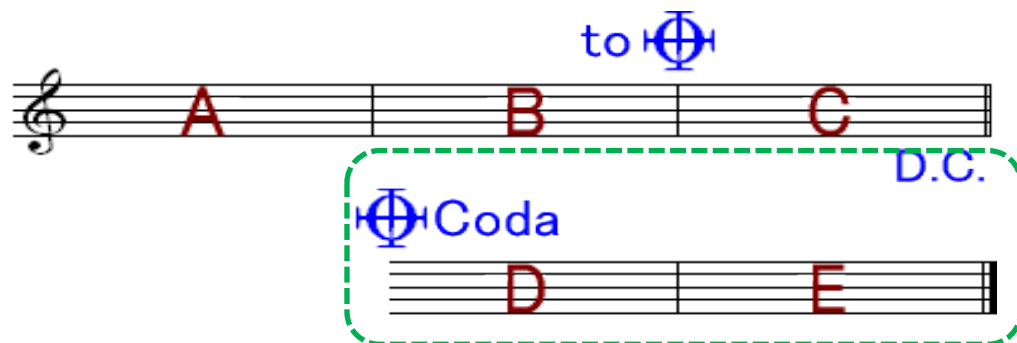
⑤ A⇒B⇒C⇒D⇒A⇒B ダカーポで最初に戻り、Fineで終わる



⑥ A⇒B⇒C⇒D⇒B⇒C ダルセーニョからセニョールに戻ってFineで終わる



⑦ A⇒B⇒C⇒A⇒B⇒D⇒E D. Cで戻り、toは通過してCodaから終りに進む



## 第3章のあらまし

音楽の好き嫌いは、歌えるとか聴けるというより、そのリズムが受け入れられるかどうかにあるような気がします。外国語はまったくわからなくてもリズムでなじんで受け入れてきました。若いころは早めのリズムになじみ演歌や歌謡曲をバカにしていたのですが、年をとるとともに違和感を感じなくなるのも不思議です。

拍子についての音楽解説は多いもののテンポと拍(ビート)の違いさえ説明せず、リズム、タイム、ビート、パルス、グループなどのカタカナ用語が乱舞し、間(ま)、のり、ため、つつこみなどの感覚表現が幅をきかしています。これは音楽の三要素にある旋律(メロディー)と似てたとえ(比喩)で説明しないとわかりにくいからでしょうか。

二拍子や三拍子の分割、あるいは強弱の並び替えで説明がつく西洋音楽と異なる世界を視野に入れた時に破たんするのがリズムのようです。だからでしょうか、リズムの説明を拍子で済ませる音楽解説書が目立ちます。等間隔に拍を刻む西洋音楽に限ればそれで十分なのでしょう。

でも、等間隔に歌われるのはごく一部ではないでしょうか。日本の民謡だけでなくエスニック・ミュージック(民俗音楽)は独特の節回しを持っています。リズム&ブルースだって独特のリズムがありますね。それは7音音階と5音音階の違いだけではなさそうです。

この章は用語の定義を明確にすることから始めました。拍子については音楽入門書や楽典が細かくふれているので省略し、拍の強弱やアクセントの置き方、それにシンコペーションを発生させる要素についてだけ図解しています。

わたしがこだわったのは、多数のリズムが生じる要素です。言葉は音楽と似ています。ウマが合うとか話が通じるというのは「波長が合う」と言われます。波長というのは互いのリズムではないでしょうか。ぶっきらぼうの話仕方、間延びした話仕方、雑な話仕方、優雅な話仕方、色気の有無などは強弱を置くアクセントの位置や声の抑揚の方向などによって異なります。もちろん言葉の区切り方もあります。休符を入れて表記するか否かで日本語の三三七拍子も四拍子や八拍子にもなります。

個々のリズムにはふれていませんが、第1章の「音と音律」、「世界の音楽」、「日本の音楽」、「ポピュラー・ミュージック」で断片的にふれました。また、通常はリズムとは言いませんが「西洋音楽の形式とジャンル」(きわめて不正確で未完成です)も大きな目で見ればリズムのパターンではないでしょうか。

テンポから拍⇒拍節⇒拍子⇒リズムに至る展開とあわせてメロディ(旋律)と和音も視野に入れた時の流れ(音の進行)の図解はわたしの妄想です。



## 拍子の基本

- 音の時間経過のパターンを「**リズム**」といいます。
- リズムの単位を「**拍(はく)**」といいます。
- 1拍の絶対的な長さを「**テンポ**」といいます。
- 拍には「**強弱**」があります。**強拍**と**弱拍**の位置と組合せで感じが違います。
- 拍の組み合わせが「**拍子(ひょうし)**」です。
- 拍には「**休符**」が含まれます。
- 拍子は「**2つの拍**」と「**3つの拍**」を組合わせ、分割します。  
拍子の基本は「2拍子」と「3拍子」です。4拍子は2拍子の**複合拍子**です。  
2拍子は強・弱、3拍子は強・弱・弱の組み合わせです。4拍子は強・弱・中強・弱です。
- 拍の強弱の位置を示すのが「**アクセント**」です。  
クラシック音楽のアクセントは原則的に強・弱の順です。  
ポピュラー音楽のアクセントは「**ビート**」と呼ばれ、弱・強の順です。
- アクセントをずらすことを「**シンコペーション**」といい、「弱起」、「タイ」、「休符」で生じます。
- 「**拍子記号**」は、分母が音符の単位で、分子が拍子を示します。  
間違いやすいのは8分音符3つをひとかたまりとみて、6/8が2拍子、12/8が4拍子です。  
でも、3/8は3拍子なんですね。また、2/2は **♩ (セント)**、4/4は **C** で表記されます。
- 拍子とビートは拍子記号が一致しません。  
ビートは4ビート、8ビート、16ビートいずれも4/4で表記されます。
- 「**連符**」はひとつ上の音符を何等分するかを記号。音符の下に数字でくくっています。  
はた(音符の羽の部分)をまとめた表示は「**連鉤(れんこう)**」といい、連符とちがいます。

2拍子 たーん たーん                      3拍子 たん たん たん

図3-1



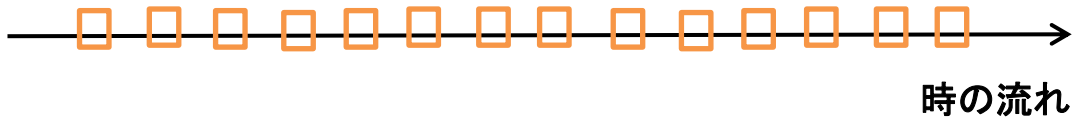
\*不完全小節は1つの小節内の拍数が不足します。最後の小節で帳尻合わせ。

図3-2 主な拍子の例(4拍子は2拍子の複合拍子です)

	単純拍子	複合拍子(3つかたまり)	混合拍子(変拍子)
2拍子系	2/2、2/4、2/8	6/4、 <b>6/8</b>	5/4、5/8 7/4、7/8
3拍子系	3/2、3/4、3/8	9/4、9/8	
4拍子系	4/2、4/4、4/8	12/4、12/8	

# 拍子とリズムを図解する

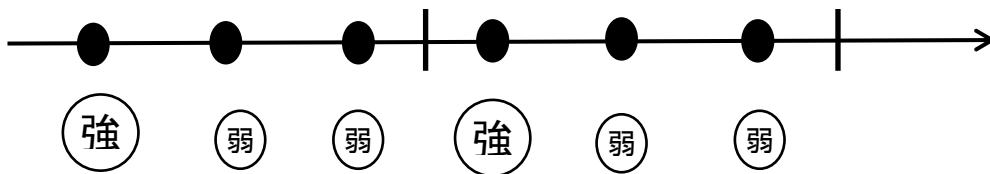
**テンポ** 絶対的な音の刻み パルス波 (例)電子時計 図3-3-1



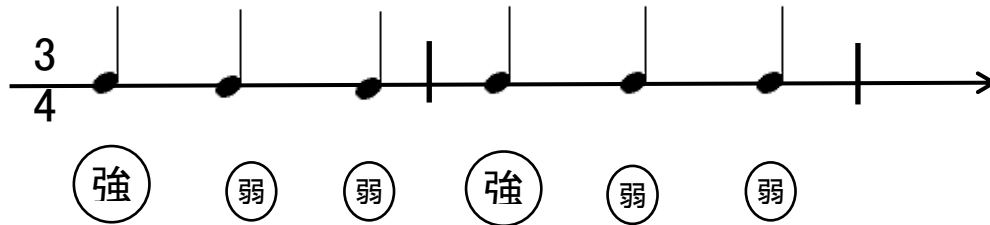
**拍**[はく] 相対的・感覚的な一定間隔音 (例)メトロノーム 図3-3-2



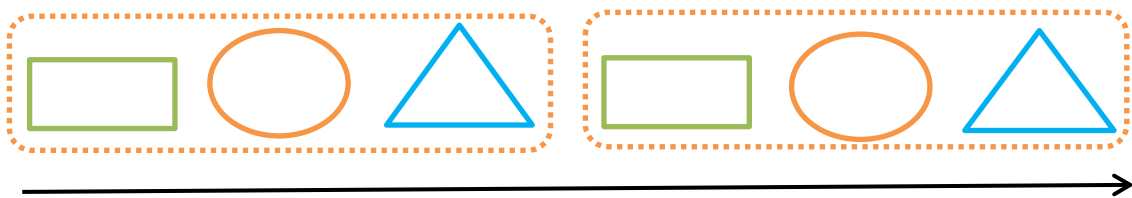
**拍節** 強弱の区切りが登場(西洋の場合) 図3-3-3



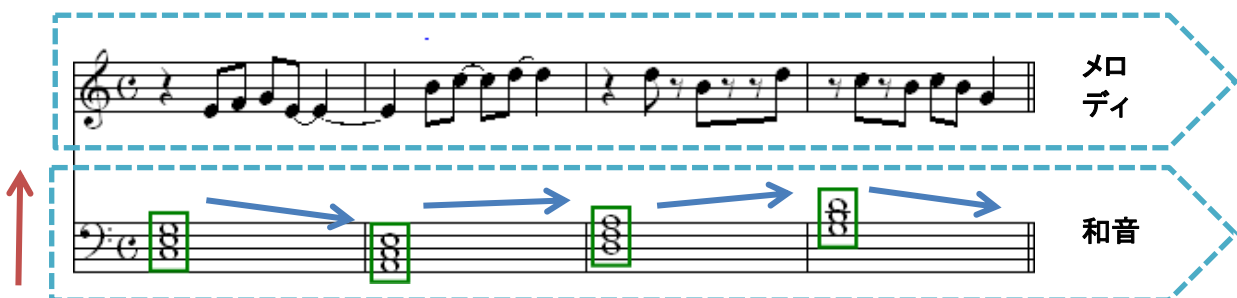
**拍子**[ひょうし] 音の長さも登場 図3-3-4



**リズム** 拍子の繰り返し(図形内は異なった音符の組み合わせ) 図3-4



**メロディーと和音(音は進行する)** 図3-5



## 多数のリズムが生じる要素

西洋音楽の音の要素は、①音の高さ、②音の長さ、③音の強さ、④音の質(音色)、⑤音との距離(空間)にあるそうです。そして音符は、音の高さ、長さ、方向を示すものです。

でも、西洋音楽以外にもリズムのパターンがあります。世界を見渡せば7音の音階は異質で、日本の四七抜き音階を始めとして5音の音階(ペンタ・スケール)の方が一般的です。

音階(スケール)の違いを取り上げたらきりがないので、ここでは拍のとらえ方がどんな違いを生じるかをまとめます。

リズムの単位が拍(ビート)で、その絶対的な速さがテンポです。拍とビートは同じことですが音楽の世界ではクラシックとポピュラーでは異なった意味合いを持って語られます。そこで混乱を避けてビートを使わず、拍や拍子で話を進めます。

### (1) アクセント

拍をずらして調子を変化させる方法には、**強弱と高低**の二つのパターンがあります。

日本語と欧米語の違いは口の開き方と言われますが、音楽にもこの違いがあります。

欧米語は強弱のアクセントで言葉が意味を持ちますが、日本語は音の高低で異なります。

先日から童謡を調べていますが作曲家の山田耕作はこの違いに固執したようです。

彼が作曲した「赤とんぼ」(三木露風作詞)はアクセントの起き方が独特といえます。

西洋音楽のアクセントは強弱で説明されますが、アクセントには高低もあります。

興味のある方は、小泉文夫さんの著作や別宮貞徳さんの『日本語のリズム』、上田信道さんの『謎解き 名作童謡の誕生』(平凡社新書)をお読みください。

### (2) 拍の移動方向

拍と拍を結びつける方法には4つあります。こういう説明はめったにありませんので参考にしてください。原礼彦・加藤三美子共著『やさしい楽譜の読み方』(成美堂出版)から得ました。この4つを組み合わせれば多数のリズムが生まれるでしょう。

#### ① 拍を垂直に移動

ロックやラテン音楽にみられるもので歯切れのよいリズムを生む。

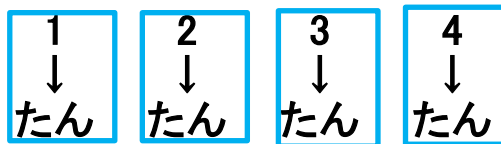


図3-6-1

#### ② 拍を水平に移動

速いロックンロールやボサノバにみられる音をひきずるリズム。

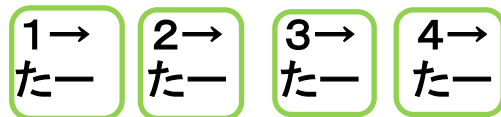


図3-6-2

#### ③ 半円のスキップ移動

バラードやジャズにみられるもので半円を描いて飛躍して進行。

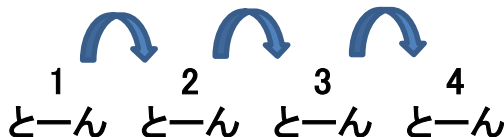


図3-6-3

#### ④ 短いスキップ移動

タンゴにみられるもので短いスキップで進行

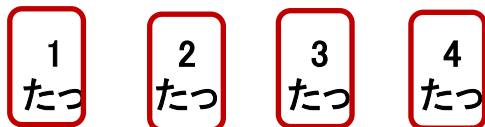
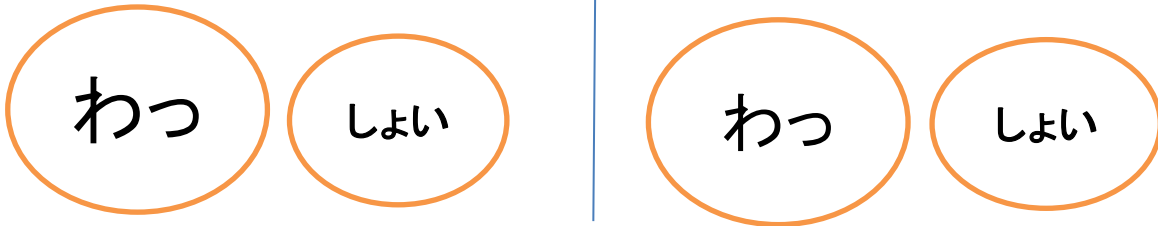


図3-6-4

## 強拍と弱拍 どこにアクセントを置くか

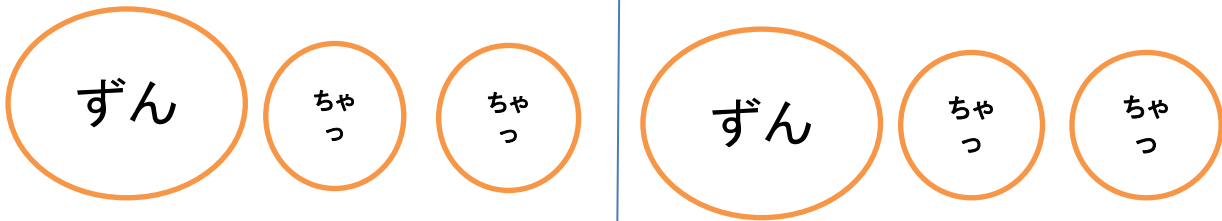
### 2拍子

図3-7-1



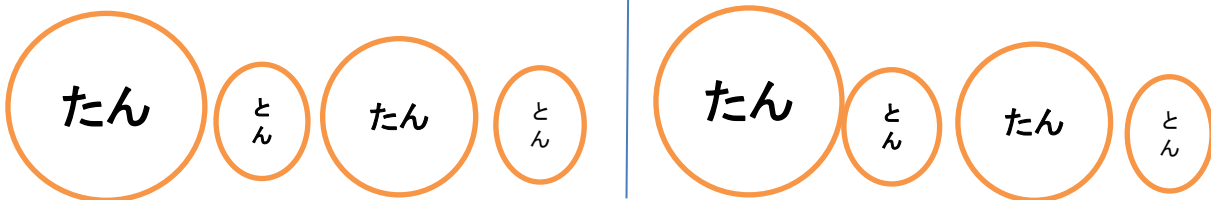
### 3拍子

図3-7-2



### 4拍子(複合拍子)

図3-7-3



## アクセントの順番

強拍先行 クラシックに多いパターン

図3-8-1



弱拍先行 ポピュラーに多いパターン

図3-8-2



**シンコペーション** アクセントをずらして曲の調子を変える  
 (注)強拍から進むことを前提に説明します。ポピュラーは弱拍から始まります。

①弱起(アフ・タクト) 弱拍から始める



(注)不完全小節は曲の終りで調整されるので同じ行で調整されません。

②タイ 同じ高さの音を続けて伸ばし拍の順序を変える

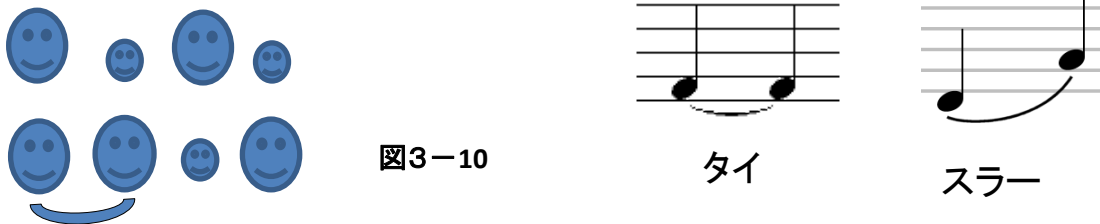
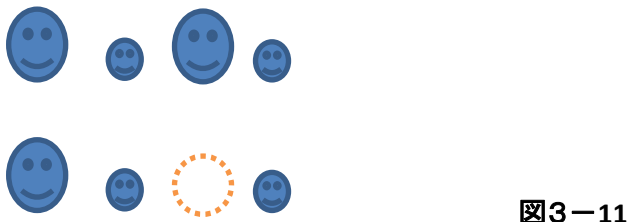


図3-10

(注)タイは同じ高さの音を結ぶ記号で、同じ小節内や小節をまたいで結ばれます。似た記号のスラーは違う高さの音を結びつけるものです。

③休符 音符の位置を変える



拍を作る音符がなくなって強弱の位置がずれる

## 第4章のあらまし

楽譜の構造は第2章でふれましたが、この章は音と音がどのように組み合わせられるかを整理しています。この章の内容は、第5章の和音を知るために欠かせない知識です。

第3章の3-5図でメロディー(旋律)と和音の図解をしましたが、音と音を水平に並べたものがメロディーで、音を垂直に並べたものが和音です。いずれも時の流れを作って音の動き(進行)を作り出します。音楽の歴史では和音を中心にした和声学が先にあって、ひとつの旋律に他の旋律を重ねた「対位法」が生まれたようです。

この章はメロディーの基礎を分析する尺度(はかり)やその理屈を扱います。楽典でいちばん細かく説明される部分ですが領域が広すぎて理解しにくい部分でしょう。それなので、説明は必要最低限なものにしぼります。

西洋音楽の暗黙の了解は「オクターブの等価性(類似性)」と「平均律による異名同音」です。

オクターブの等価性というのは、7つの全音(上のドを含めれば8つの音ですが初めのドと上のドは同じものと扱われます)で説明するものです。単音程と複音程を同じものとみなし、「転回」という考えが前提とされます。

異名同音は均一な12の半音で音階を分割する平均律によるものです。それ以前の音律と異なり調性の区分がややあいまいになります。

音名や音階は西洋音楽の文法です。音と音との距離を示すのが音程ですが、完全・長・短・増・減などの区分が飛び出して混乱します。紛らわしいのはダブルフラットやダブルシャープです。異名同音の説明に飛び出してあわてさせられます。これは理屈のお遊びではないでしょうか。

ともあれ調性や音の進行を簡単に理解するのに「五度圏図」は欠かせません。5度移動と4度移動は同じものという考えも忘れてはならないでしょう。

この章では和音に結びつく実用例をまとめています。「転回音程」、「進行を表現する用語」、「#やbの攻略法」、「調号の早見法」などを利用してください。「音階と変化記号」は知らなくても良いことですがどこに変化記号がつくのか戸惑うこともあるので作成しました。長音階と短音階の区別は、わたしが理解できないことも多くて未完成です。知っておいた方が良いものだけを整理していますが興味がある方は専門書を読んでください。

音名 音名の呼び方 図4-1

イタリア語	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド
日本語	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	イ	ロ	ハ
英語	C	D	E	F	G	A	B	C
ドイツ語	C	D	E	F	G	A	H	C

音階 幹音(♯や♭がつかない音)を階段状に並べたもの。上の音名順と同じ

音階の構造 幹音の間をさす。「ミーファ」と「シード」が半音

図4-2

長音階	ドーレ	レーミ	ミーファ	ファーソ	ソーラ	ラーシ	シード
	全音	全音	半音	全音	全音	全音	半音
短音階	ラーシ	シード	ドーレ	レーミ	ミーファ	ファーソ	ソーラ
	全音	半音	全音	全音	半音	全音	全音

音程 ある音を基準にした音と音の高さ(ドを基準にした場合)

高さの例	音程	区分	半音の数	別称
ドード	1度	完全	0	ユニゾン
ドーレ♭	2度	短2度	1	
ドーレ		長2度	2	
ドーミ♭	3度	短3度	3	
ドーミ		長3度	4	
ドーファ	4度	完全	5	
ドーソ♭	増4度 減5度	三全音	6	トライトン
ドーソ	5度			
ドーラ♭	6度	短6度	8	
ドーラ		長6度	9	
ドーシ♭	7度	短7度	10	
ドーシ		長7度	11	
ドー上ド	8度	完全	12	オクターブ

図4-3

度数には足して9になる関係があります。2度と7度、3度と6度は長短が逆転しますが、1度と8度は同じで、4度と5度も変わりません。

「ファーシ」と「シーファ」は不協和音になります

幹音間の半音の数が4度から奇数に変わります。「ミーファ」と「シード」は半音です。

# 音階と音名

図4-4

英米式	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド
日本語	C	D	E	F	G	A	B	C
日本語	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	イ	ロ	ハ

# 音の並び

図4-5

ト音記号 (G)

1オクターブ上のド

G=ソ

ヘ音記号 (F)

1オクターブ下のド

F=ファ

ラ

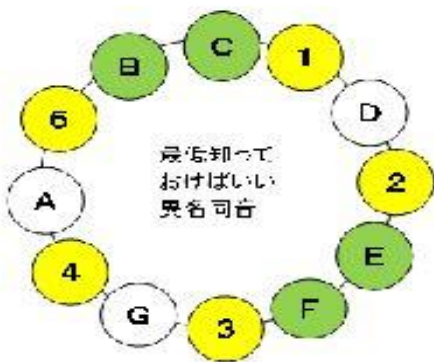
レ

ソ

ト音記号はGから始まります。G=ソ=トです。高音部記号といいます。  
 ヘ音記号はFから始まります。F=ファ=トです。低音部記号といいます。

# 異名同音

西洋音階の平均律では名前は違っても同じ音や調とされます。

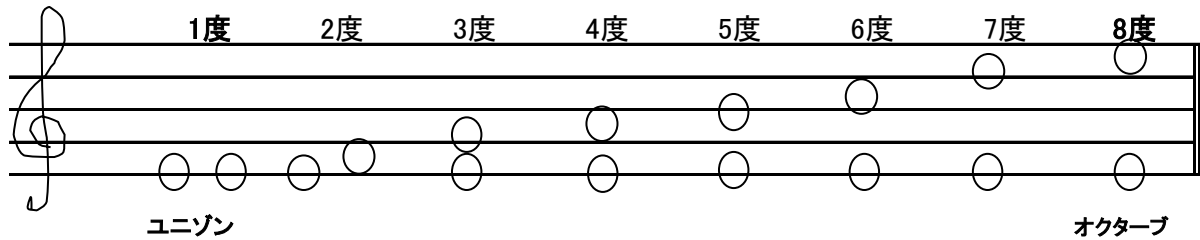


- |   |         |
|---|---------|
| 1 | C# = D♭ |
| 2 | D# = E♭ |
| 3 | F# = G♭ |
| 4 | G# = A♭ |
| 5 | A# = B♭ |
| C | C = B#  |
| E | E = F#  |
| F | F = E♭  |
| B | B = C♭  |

図4-6



音程の数え方：基準音をどこに置いても同じ 図4-7



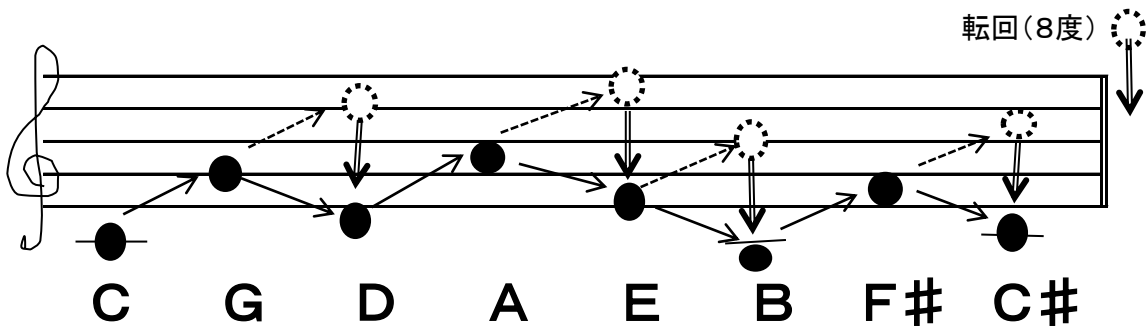
- 度数は1から数えます。0はありません。
- 度数は足し合わせて9になる「補数」の関係があります。
 

1+8=9	8+1=9
2+7=9	7+2=9
3+6=9	6+3=9
4+5=9	5+4=9
- 音楽の説明はこれを利用し、符号を無視して+と-で計算しています  
 5度上がる(+5)が4度下がる(-4)と同じになります  
 上記の関係も同じように考えればいいわけです  
 上がる下がるの言葉に惑わされないようにしましょう。

5度移動と4度移動 変動を滑らかにするために「転回」を利用しています  
 転回は次にふれています。

(1) 5度移動をプラスで並べる 上り5度と下り4度は同じことです

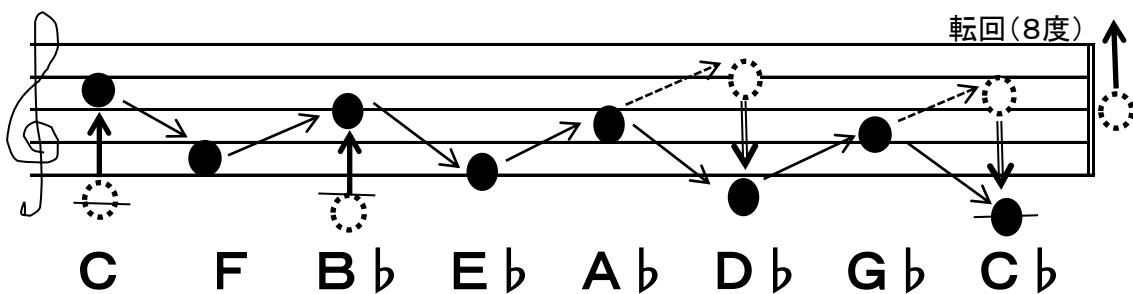
図4-8



●これは五度圏の#系の並びです

(2) 5度移動をマイナスで並べる 下り5度は上り4度と同じです  
 1オクターブ上のドから始めます

図4-9



●これは五度圏のb系の並びです

## 転回音程

音程には完全8度内の音程にある「単音階」とそれを越える音程の「複音程」があります。  
 転回音程は、単音程の2音のいずれかを1オクターブ上か下に移して上下関係を逆さにすることで

図4-10

原音程 6度 → 転回音程 3度      原音程 5度 → 転回音程 4度

転回音程の考えから次の関係が出てきます

### (1) 転回音程と度数

原音程と転回音程は合わせて9度になる補数の関係がある。  
 上の図解も同じですが、次のものもあります

図4-11

7度 ↔ 2度      1度 ↔ 8度

### (2) 転回音程と完全・長・短

次のことは音階を理解して納得できるので結論だけあげます。

- ①完全音程は転回しても完全音程のままである。  
 1度、4度、5度、8度が完全音程です。
- ②長・増は転回すると短・減に変わる。  
 2度、3度、6度、7度音程には長短があります。  
 4度には増、5度には減が完全以外にあります。

## 音程の数え方の例外：増4度・減5度

図4-12      3全音＝トライトーン

増4度      減5度

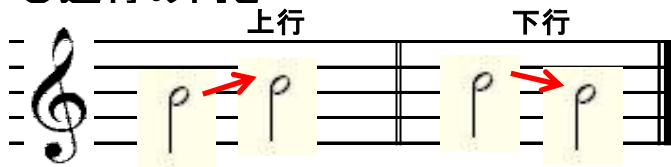
ファ半音      シ半音      シ半音      ファ半音

3全音＝6半音      3全音＝6半音

# 単一声部の進行パターン

図4-13

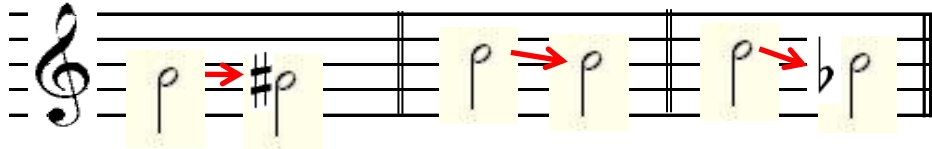
## ●進行の向き



この進行用語  
は和音の進行  
にも使われま  
す

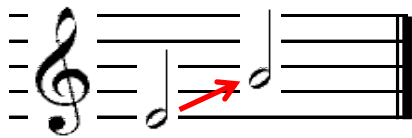
## ●順次進行

2度間隔までの進行



## ●跳躍進行

3度以上の進行

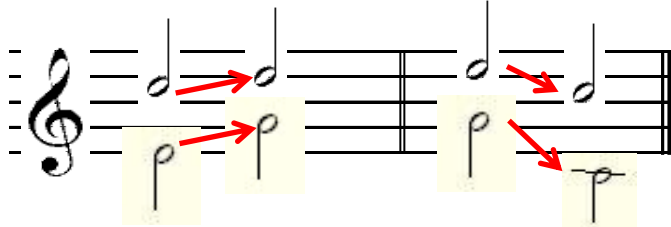


# 2声部間の進行パターン

図4-14

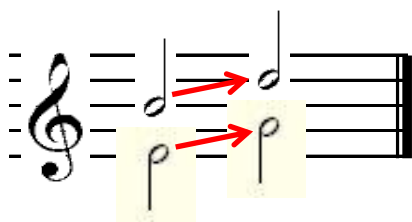
## ●並進行(へいしんこう)

上下の声部が同じ方向へ異なる度数で進行



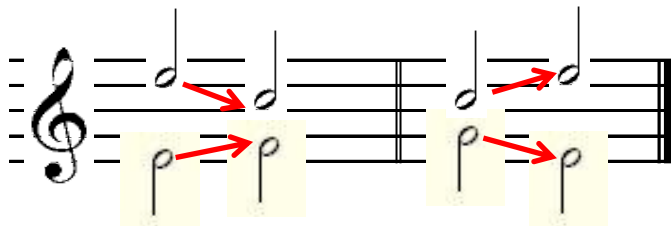
## ●平行

上下の声部が同じ方向へ同じ度数で進行



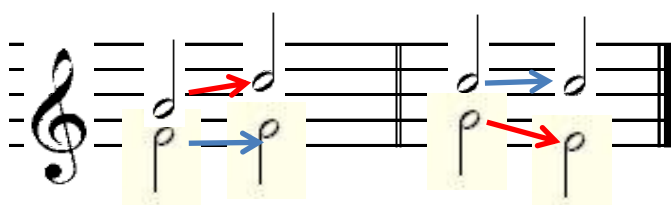
## ●反進行(はんしんこう)

互いの声部が逆方向に進行



## ●斜進行(しゃしんこう)

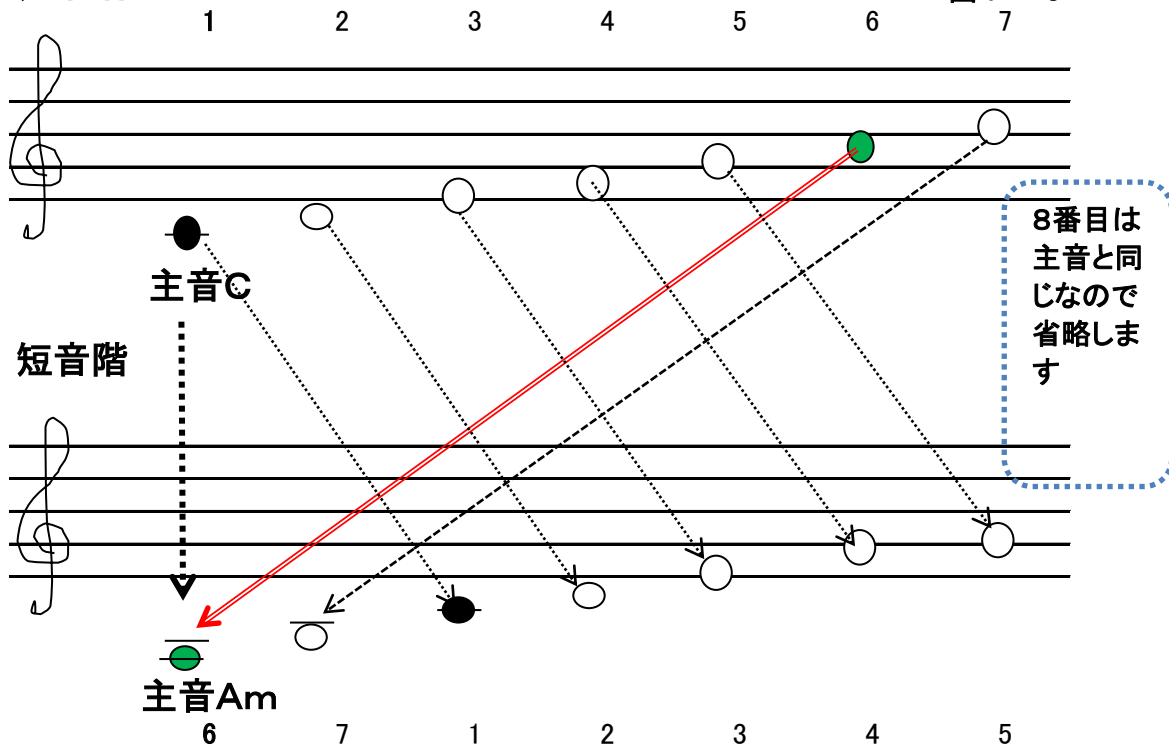
一方が変化せず他方が上下に移動



長音階と短音階の関係: 自然的短音階は長音階の主音を3度下げたもの

長音階

図4-15



全音と半音の位置が変わることに注意してください  
長音階の間隔は全・全・半・全・全・全・半ですが、  
短音階の間隔は全・半・全・全・半・全・全になります。

全は全音、半は半音  
です

短音階は自然的短音階、和声的短音階、旋律的短音階がある

図4-16

図は「楽典」を改変しました

### 3つの短調の違い 6度・7度音が異なる

- 自然的短音階(ナチュラル・マイナー) 長音階と同じ音の並び替え=平行調
- 和声的短音階(ハーモニック・マイナー) 第7音を半音上げる
- 旋律的短音階(メロディック・マイナー) 上行は第6音と第7音を半音上げ、下行は元に戻す

#### ①音程からみた音階の違い 長調とは3度で異なり、短調間では6・7度に違い

図4-17

	1度 ドラ	2度 レシ	3度 ミド	4度 ファレ	5度 ソミ	6度 ラファ	7度 シソ	8度 ドラ
長音階	完全	長2度	長3度	完全	完全	長6度	長7度	完全
自然的短音階	完全	長2度	短3度	完全	完全	短6度	短7度	完全
和声的短音階	完全	長2度	短3度	完全	完全	短6度	長7度	完全
旋律的短音階	完全	長2度	短3度	完全	完全	長6度	長7度	完全

長音階はすべて長音程(全音=白キー)で構成されています。  
短音階は長音程と短音程(半音=黒キー)が組み合わせられて構成されます。

#### ②同じ短音階でも和音の構成が異なる 和音は第5章でふれています

図4-18

	I	II	III	IV	V	VI	VII
長音階	C	Dm	Em	F	G7	Am	Bm(♭5)
自然的短音階	Am	Bm(♭5)	C	Dm	Em	F	G7
和声的短音階	Am	Bm(♭5)	C(♯5)	Dm	E	F	G♯m(♭5)
旋律的短音階	Am	Bm	C(♯5)	D	E	F♯m(♭5)	G♯m(♭5)

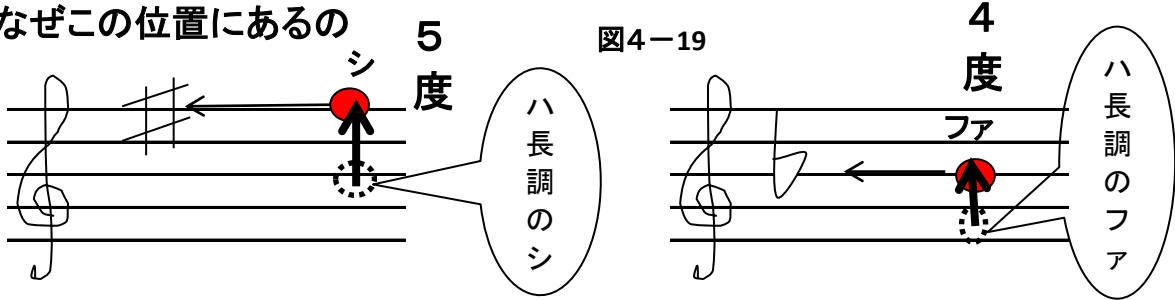
和音の違いは音階によるものと構成音によるものとが重なります。  
和音は3度違いの音を積み重ねるので**m**や**7**は**短音**です。  
音階ごとのコードの並びは別にふれています。

# ＃や♭の攻略法

## 2つの用法

- ①シャープ(＃)は半音上げ、フラット(♭)は半音下げる臨時的な変化記号です。
- ②もう一つは音階全体を表すための「調号」キーとして＃や♭を複数付けます。

### 調号がなぜこの位置にあるの



シャープは「シ」、フラットは「ファ」という解説がありますが調号をよく見るとハ長調(Cメジャー)で見ればシャープはソ(G)ですがフラットはシ(B)です。それではと各音階を眺めてみると次の規則性がありました。

- 各長音階の最後のシャープは第7度音(階名でいえばシ)にあたる。
  - 各長音階の最後のフラットは第4度音(階名でいえばファ)にあたる。
- だから、シャープのある位置の1度上のドが主音になる長音階となる。  
あるいは、フラットのある位置の4度下のドが主音になる長音階となる。  
ちなみに上の図はハ長調(C)から＃は5度、フラットは4度上がっています。  
ということは、下の図でいえば記号数1の場合でG長調とF長調なんですね。

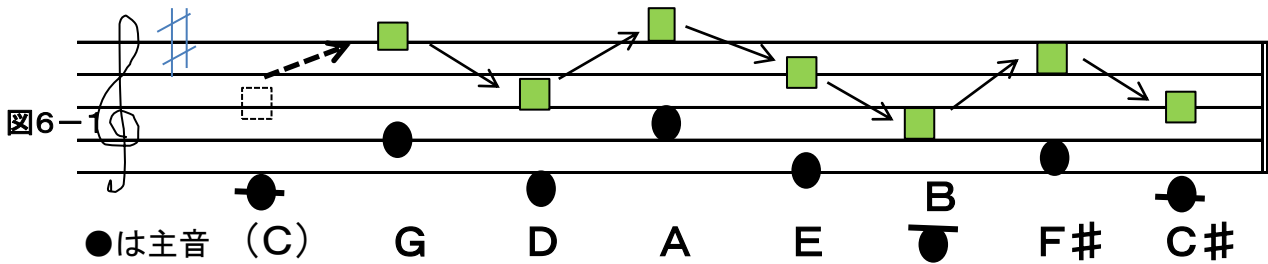
### 調性を示す＃と♭の並び

図4-20

1	＃	G(ト)長調	♭	F(ヘ)長調
2	＃＃	D(ニ)長調	♭ ♭	B♭(変口)長調
3	＃＃＃	A(イ)長調	♭ ♭ ♭	E♭(変ホ)長調
4	＃＃＃＃	E(ホ)長調	♭ ♭ ♭ ♭	A♭(変イ)長調
5	＃＃＃＃＃	B(ロ)長調	♭ ♭ ♭ ♭ ♭	D♭(変二)長調
6	＃＃＃＃＃＃	F＃(嬰ヘ)長調	♭ ♭ ♭ ♭ ♭ ♭	G♭(変ト)長調

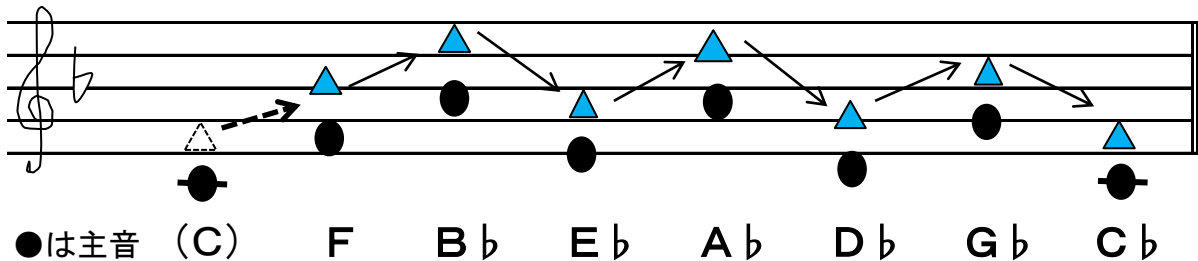
### シャープ系(＃を□表示) プラス5度、マイナス4度の移動です

図4-21



### フラット系(♭を△表示) マイナス5度、プラス4度の移動です

図4-22



調号の早見表(五度圏の利用)

図4-23

符号の数	0	1	2	3	4	5	6	7
#	C ハ長調	G ト長調	D ニ長調	A イ長調	E ホ長調	B (Cb) ロ長調	F# (Gb) 嬰ハ長調	C# (Db) 嬰ハ長調
	Am イ短調	Em ホ短調	Bm ロ短調	F#m 嬰ハ短調	C#m 嬰ハ短調	G#m (Abm) 嬰ハ短調	D#m (Ebm) 嬰二短調	A#m (Bbm) 嬰ハ短調
b	C ハ長調	F ヘ長調	Bb 変ロ長調	Eb 変ホ長調	Ab 変イ長調	Db (C#) 変二長調	Gb (F#) 変ト長調	Cb (B) 変ハ長調
	Am イ短調	Dm ニ短調	Gm ト短調	Cm ハ短調	Fm ヘ短調	Bbm (A#m) 変ロ短調	Ebm (D#m) 変ホ短調	Abm (G#m) 変イ短調

実用的には符号の数が4つまで覚えておけば、譜面を読んだり移調できます。

カッコ書きは異名同音調です。

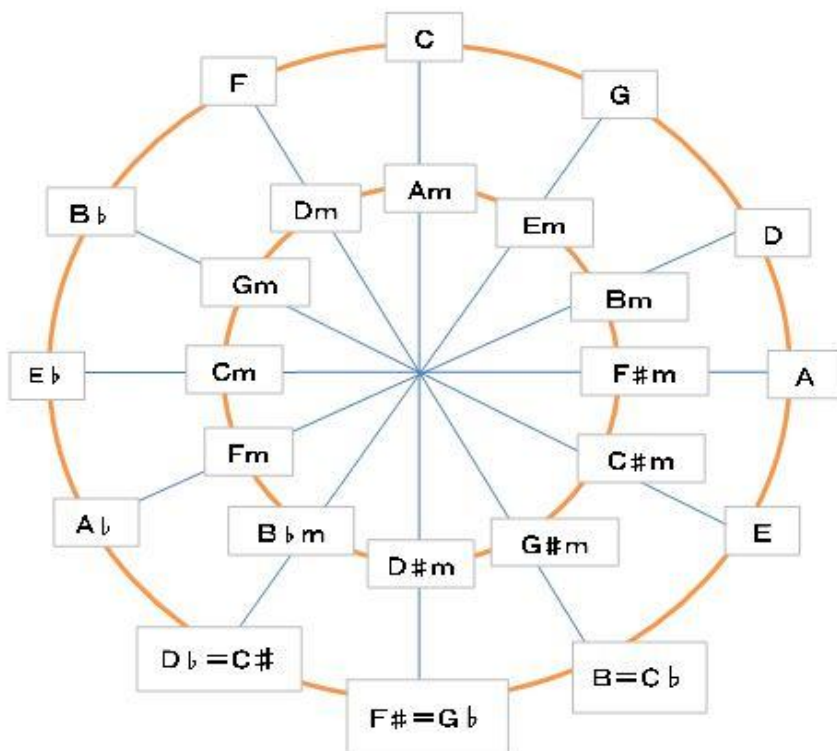
五度圏図は#の7番目とbの6・7番目を省略して表記されます。理由は異名同音だからですがなじみにくいものでしょう。この表で網かけした部分が隠れていることにご注意ください。

なお、五度圏は「調性」の判定だけでなく、和音(コード)の進行にも利用できます。ドミナント進行やツー・ファイブ進行は4度上行(5度下行)の「強進行」で説明できます。進行の強弱は音程(度数)と方向が影響するからです。

この表は楽譜を眺めるときに利用してください。符号がいくつ付いていても、いちばん右寄りの符号に注目し、#の場合は2度上か7度下がド、bの場合は5度上か4度下がドとして音名を判定してください。

五度圏は、音符の動きとしては4度上行=5度下行になります。

図4-24



### 五度圏

ある音から完全5度の上下進行を連続させてできる循環図。4度図ともいう。調号の系列、関係調の配置、和音の進行などに応用される。「道楽親父の音楽ガイド」を参照



## どの音に#や♭がつくの【音階と変化記号①】

変化記号の数を数えるときは下のド(ラ)と上のド(ラ)は同じものです。

変化記号は#・♭いずれも7つありますが5つまでにしています。

音階は、長音階と短音階でおのおの12あります。

### ●ABC順に並べたダイアトニック・スケール【全音階】

長音階

図4-25

音階	記号の数	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド
A	#3	A	B	C#	D	E	F#	G#	A
B (C♭)	#5	B	C#	D#	E	F#	G#	A#	B
C	—	C	D	E	F	G	A	B	C
D	#2	D	E	F#	G	A	B	C#	D
E	#4	E	F#	G#	A	B	C#	D#	E
F	♭1	F	G	A	B♭	C	D	E	F
G	#1	G	A	B	C	D	E	F#	G
A♭	♭4	A♭	B♭	C	D♭	E♭	F	G	A♭
B♭	♭2	B♭	C	D	E♭	F	G	A	B♭
D♭ (C#)	♭5	D♭	E♭	F	G♭	A♭	B♭	C	D♭
E♭	♭3	E♭	F	G	A♭	B♭	C	D	E♭

自然短音階(長音階の音と同じで順番がラから始まります)

図4-26

音階	記号の数	ラ	シ	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ
Am	—	A	B	C	D	E	F	G	A
Bm	#2	B	C#	D	E	F#	G	A	B
Cm	♭3	C	D	E♭	F	G	A♭	B♭	C
Dm	♭1	D	E	F	G	A	B♭	C	D
Em	#1	E	F#	G	A	B	C	D	E
Fm	♭4	F	G	A♭	B♭	C	D♭	E♭	F
Gm	♭2	G	A	B♭	C	D	E♭	F	G
B♭m (A#m)	♭5	B♭	C	D♭	E♭	F	G♭	A♭	B♭
C#m	#4	C#	D#	E	F#	G#	A	B	C#
F#m	#3	F#	G#	A	B	C#	D	E	F#
G#m (A♭m)	#5	G#	A#	B	C#	D#	E	F#	G#

三種類の短音階は別に触れています。



## どの音に#や♭がつくの【音階と変化記号②】

### ●五度圏を前提にしたダイアトニック・スケール

調性に基づく並び。楽典や理論書に多い並び方で、規則性がわかります。

#### 【規則性が見える】

- ① #がつく音階はシの列をF→C→G→D→Aの順に5度上行して記号が増加。
- ② ♭がつく音階はファの列をB→E→A→D→Gの順に4度上行して記号が増加。
- ③ 自然的短音階は長音階を並べ替えたものですから同じ規則性があります。

#### 長音階(メジャー)

図4-27

音階	記号の数	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド
C	—	C	D	E	F	G	A	B	C
G	#1	G	A	B	C	D	E	F#	G
D	#2	D	E	F#	G	A	B	C#	D
A	#3	A	B	C#	D	E	F#	G#	A
E	#4	E	F#	G#	A	B	C#	D#	E
B (C♭)	#5	B	C#	D#	E	F#	G#	A#	B
F	♭1	F	G	A	B♭	C	D	E	F
B♭	♭2	B♭	C	D	E♭	F	G	A	B♭
E♭	♭3	E♭	F	G	A♭	B♭	C	D	E♭
A♭	♭4	A♭	B♭	C	D♭	E♭	F	G	A♭
D♭ (C#)	♭5	D♭	E♭	F	G♭	A♭	B♭	C	D♭

#### 自然的短音階(長音階の音と同じで順番がラから始まります)

図4-28

音階	記号の数	ラ	シ	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ
Am	—	A	B	C	D	E	F	G	A
Em	#1	E	F#	G	A	B	C	D	E
Bm	#2	B	C#	D	E	F#	G	A	B
F#m	#3	F#	G#	A	B	C#	D	E	F#
C#m	#4	C#	D#	E	F#	G#	A	B	C#
G#m (A♭m)	#5	G#	A#	B	C#	D#	E	F#	G#
Dm	♭1	D	E	F	G	A	B♭	C	D
Gm	♭2	G	A	B♭	C	D	E♭	F	G
Cm	♭3	C	D	E♭	F	G	A♭	B♭	C
Fm	♭4	F	G	A♭	B♭	C	D♭	E♭	F
B♭m (A#m)	♭5	B♭	C	D♭	E♭	F	G♭	A♭	B♭

## 第5章のあらまし

ギターを弾くために音楽解説書を読んできたわたしには和音は最も親しいジャンルです。特にコード進行に関心があります。

でも、この章では和音の基礎知識にとどめています。

和音は演奏をするときには簡単に映りますが、音の積み重ねゆえに説明が複雑になります。そこがメロディー(旋律)との違いです。

和音については多くの方々が細々とした説明をしています。協和音程と非協和音程をどのように把握し、それをどのように利用するかは音楽のひとつのテーマのようです。

そんなわけでこの章は中途半端です。

わたしが和音に感じた疑問は「道楽親父の音楽ガイド」や「ギターに挑戦」で個々の曲を例にして取り上げています。

また、「道楽親父の音楽ガイド」では、減音程の不安定さの構造分析にもふれ、フォークを例にして和音の進行パターンにもふれています。

この章で参考になるのは、「近親調の結びつき」や「変化記号の並び」ぐらいのものです。

# 和音

主音の上に3度ずつ積み重ねた音の組み合わせで三和音と四和音があります

転回は根音(ルート)を変えた場合です。

図5-1

英語	日本語	表記	調号	基本形	第1転回	第2転回
Cメジャー	ハ長調	C	なし	ドミソ	ミソド	ソドミ
Fメジャー	ヘ長調	F	♭	ファラド	ラドファ	ドファラ
Gメジャー	ト長調	G	♯	ソシレ	シレソ	レソシ
Aマイナー	イ短調	Am	なし	ラドミ	ドミラ	ミラド
Dマイナー	ニ短調	Dm	♭	レファラ	ファラレ	ラレファ
Eマイナー	ホ短調	Em	♯	ミソシ	ソシミ	シミソ

## いずれも同じ和音 TSD(I・IV・V)

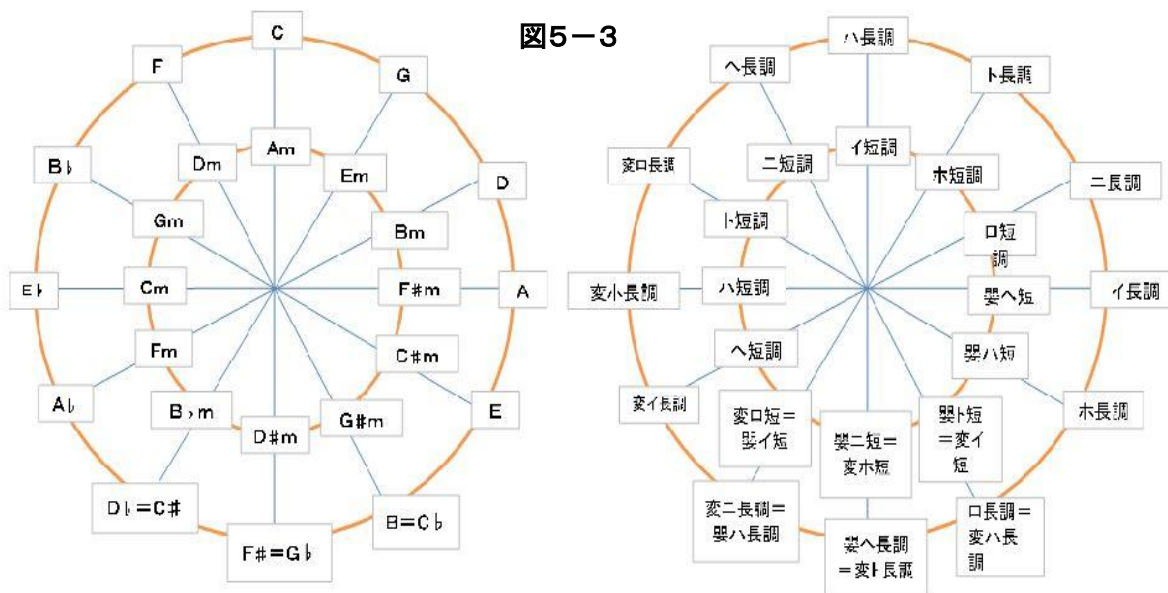
【注】T=トニック(主和音)、S=サブドミナント(下屬音)、D=ドミナント(属音)

\*主音はハ長調の音名を使いました。絶対ドレミでなく「移動ドレミ」法です。 図5-2

英語	日本語	表記	調号	主音*	T(I)	S(IV)	D(V)
Cメジャー	ハ長調	C	なし	ド	C	F	G
Fメジャー	ヘ長調	F	♭	ファ	F	B♭	C
Gメジャー	ト長調	G	♯	ソ	G	C	D
Aマイナー	イ短調	Am	なし	ラ	Am	Dm	E
Dマイナー	ニ短調	Dm	♭	レ	Dm	Gm	A
Eマイナー	ホ短調	Em	♯	ミ	Em	Am	B

## 五度圏

音ないし調の循環を円形に表示したものです。4度進行とも呼ばれます。



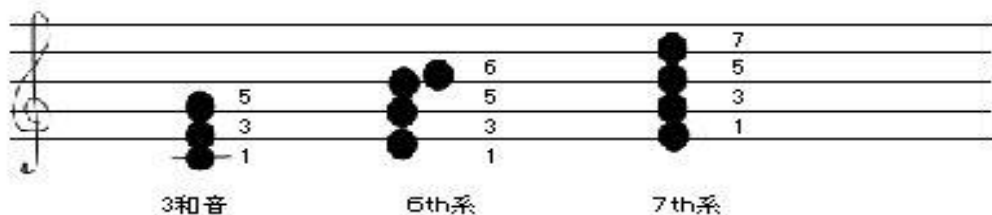
# 和音の構成

図5-4

## コード(和音)のしくみ

根音に音を積み重ねたもの

- 3和音** 1、3、5度音を重ねた和音
- 4和音** 3和音に長6度音または7度音(長・短)を重ねたもの
- テンション** 上記以外に修飾的に9、11、13度音などを積み重ねたもの



次の図は「楽典 音楽理論の基礎」から引用しました。

<http://musical-grammar.com/note005.html>

図5-5

長三和音	短三和音
第5音 → 第3音 → 根音 →	第5音 → 第3音 → 根音 →
長3度 短3度 完全5度	長3度 短3度 完全5度
増三和音	減三和音
第5音 → 第3音 → 根音 →	第5音 → 第3音 → 根音 →
長3度 長3度 増5度	短3度 短3度 減5度

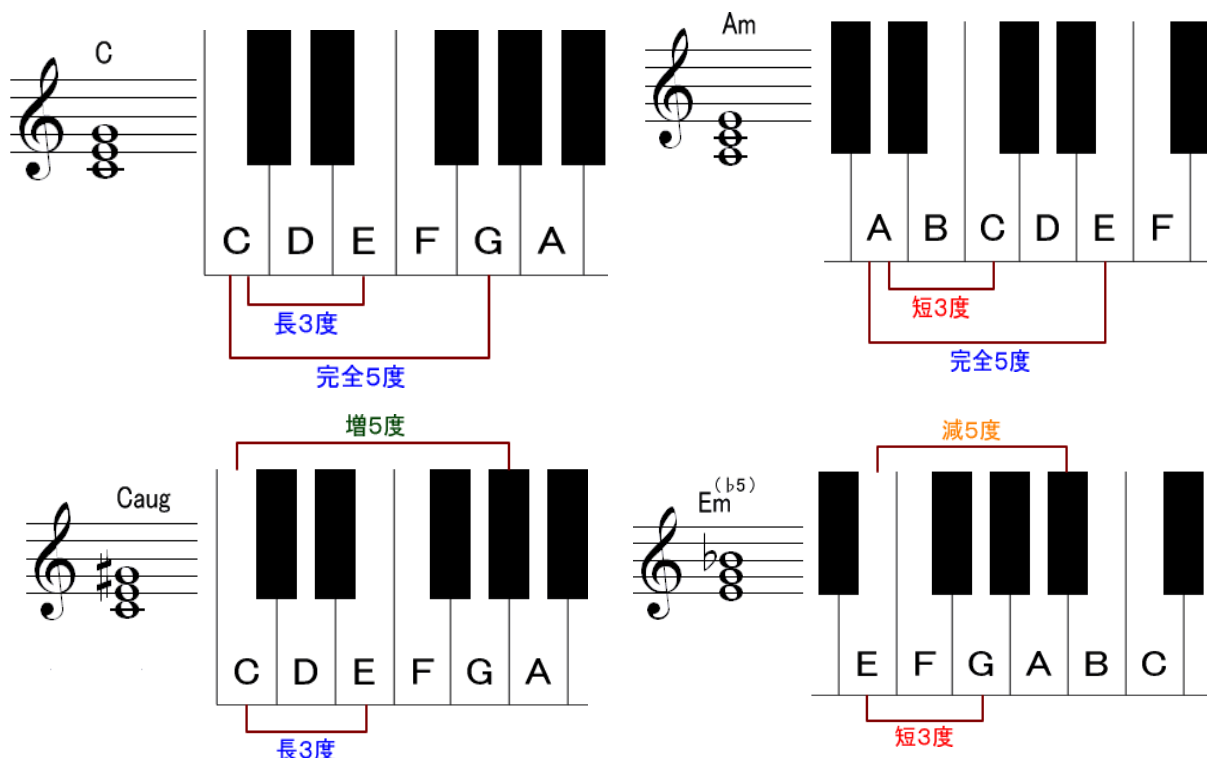


図5-6

基本的なコードの区分(1オクターブ以内に限る)

区分	音の構成	名称	和名【注】	結びつき	例
三和音	1・3・5度	メジャー	長三和音	長3度+短3度	C
		マイナー	短三和音	短3度+長3度	Cm
		オーグメント	増三和音	長3度+長3度	Caug
		ディミニッシュ	減三和音	短3度+短3度	Cdim
四和音	セブンス系 1・3・5・7度	メジャー・セブンス	長七和音	長三和音+長7度	CM7
		マイナー・セブンス	短七和音	短三和音+短7度	Cm7
		ドミナント・セブンス	属七和音	長三和音+短7度	C7
		マイナー・メジャー・セブンス	なし	短三和音+長7度	CmM7
		オーグメント・セブンス	なし	増三和音+短7度	Caug7
		ディミニッシュ・セブンス	減七和音	減三和音+減7度	Cdim7
	シックス系 1・3・5・6度	メジャー・シックス	長三和音付加六	長三和音+長6度	C6
		マイナー・シックス	短三和音付加六	短三和音+長6度	Cm6
例外	1・4・5度	サスペンデット・フォー	なし	3度を4度に吊上げ	Csus4
	1・4・5・7度	セブン・サスペンデット・フォー	なし	属7和音を4度吊上げ	C7sus4

【注】和名のないものはクラシックの楽典に見当たりません  
 短6度は増5度と同じ音です。したがって、シックス系は長6度音の付加に限られます  
 増三和音は増5度(=短6度)です。また、減三和音は減5度です。

図5-7

### コードネームの表記

コードの表記は統一されていませんが次のような暗黙の了解があります。

	1度音	3度音	5度音	6度音	7度音	その他
長調はメジャー(M)、短調マイナー(m)。 #やbの付く長調や短調もあります。	アルファベットの <b>大文字で表記</b> します。 キー(調)を示します。	長音(M)は表記されません。 <b>短音はmで表記</b> されます。	増減を除いて表記されません。 また、音符が省略されることも多い。	<b>数字だけ表記</b> されます。 6度音の付加は長音に限られます。	<b>長音はMで表記</b> されます(majや△もあります)。 短音はmを表記せず <b>数字だけ(7は短音)</b> です。	9、.11、13は <b>数字のみ表記</b> されます。 aug(増、+)、dim(減、-)、sus、adなど多数の付加表示があります。 【注】6度音の付加は長ですが、 <b>7度音は長と短が付加</b> されます。



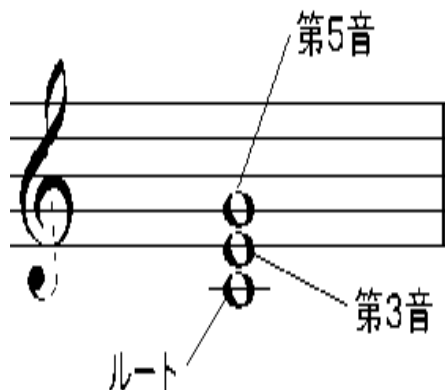
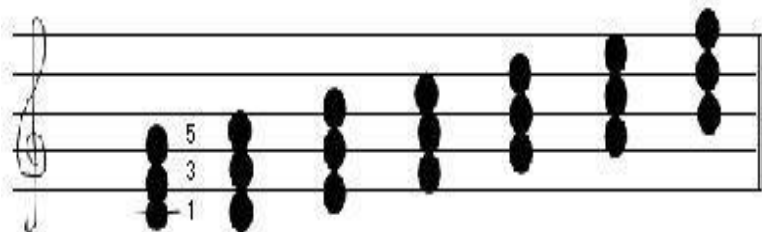
# ダイアトニック・コード

全音階に和音を積み重ねたもの

図5-8

3和音

3度音の長短でメジャーとマイナーに区別される

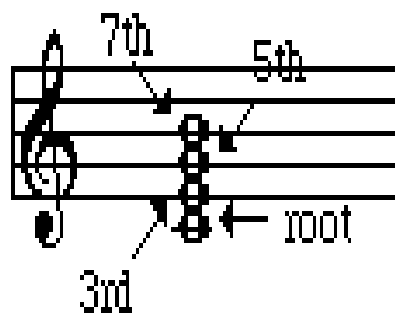
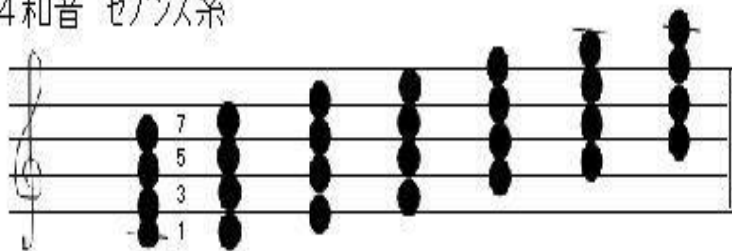


番目	I	II	III	IV	V	VI	VII
メジャー	C	Dm	Em	F	G	Am	Bm $\flat$ 5
マイナー	Am	Bm $\flat$ 5	C	Dm	Em	F	G

長3度音は省略されず、短3度音は省略記号がつけられる

図5-9

4和音 セブンス系



番目	I	II	III	IV	V	VI	VII
メジャー	CM7	Dm7	Em7	Fm7	G7	Am7	Bm7 $\flat$ 5
マイナー	Am7	Bm7 $\flat$ 5	CM7	Dm7	Em7	Fm7	G7

長7度音は省略せず、短7度音は省略記号がつけられます

7度音には長と短があります。

G7は、長3度音と短7度音が省略されています。

O7は属7(ドミナントセブン)と呼ばれてコードで多用されます。

## ダイアトニック・コードを分解すると

図5-10

	I	II	III	IV	V	VI	VII
コード名	C	Dm	Em	F	G	Am	Bm $\flat$ 5
3~5度	短3度	長3度	長3度	短3度	短3度	長3度	短3度
1~3度	長3度	短3度	短3度	長3度	長3度	短3度	短3度
1~5度 (全音)	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3
(半音)	7	7	7	7	7	7	6

VIIのコードは減音程で半音がひとつ不足します。これについてはホームページでふれています

## 主要三和音

I・IV・Vを主要三和音といい、その他を「副三和」音といいます

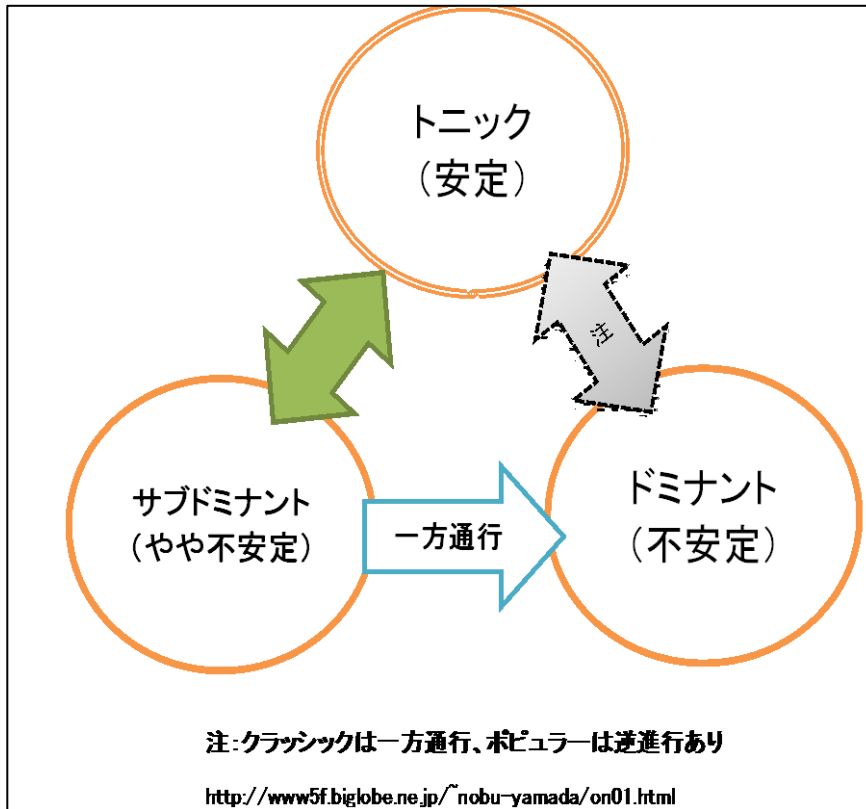


図5-11

## 和音の終止形(ケーデンス)

曲の終りだけでなく曲の始まりにも使われます。

- ①T・D・T     ドミネントからトニックで終わる「ドミナントモーション」が特徴です。
- ②T・S・D・T     サブドミナントから「ドミナントモーション」で終わるパターンです。
- ③T・S・T     サブドミナントからトニックで終わるもやっとした終了です。アーメン終止

\* 唱歌や童謡はD→Tで終わる①と②のパターンがほとんどです。  
\* ビートルズの曲はS→Tで終わる曲が多いようです。

## 和音の進行で頻出する用語 進行パターンの基になる考え

- 強進行             D→Tのルート(根音)の4度上行をいいます。
- 代理和音             I・IV・V以外を用いた和音です。
- ツー・ファイブ     IVの代わりにIIの和音を用いて4度上行させた強い進行。
- 偽終止(ぎしゅうし)     最後のトニックを代理和音のVIで終わること。IIIは少ない。
- セカンダリードミナント     借用和音を用いてドミナント7モーションにさせること。
- 転調                 曲に変化を与えるために臨時的に別の調に変えること。
- 半進行             ある音からDへ向かうこと

**近親調** 調には次のような関係があり、和音の進行に使われます。

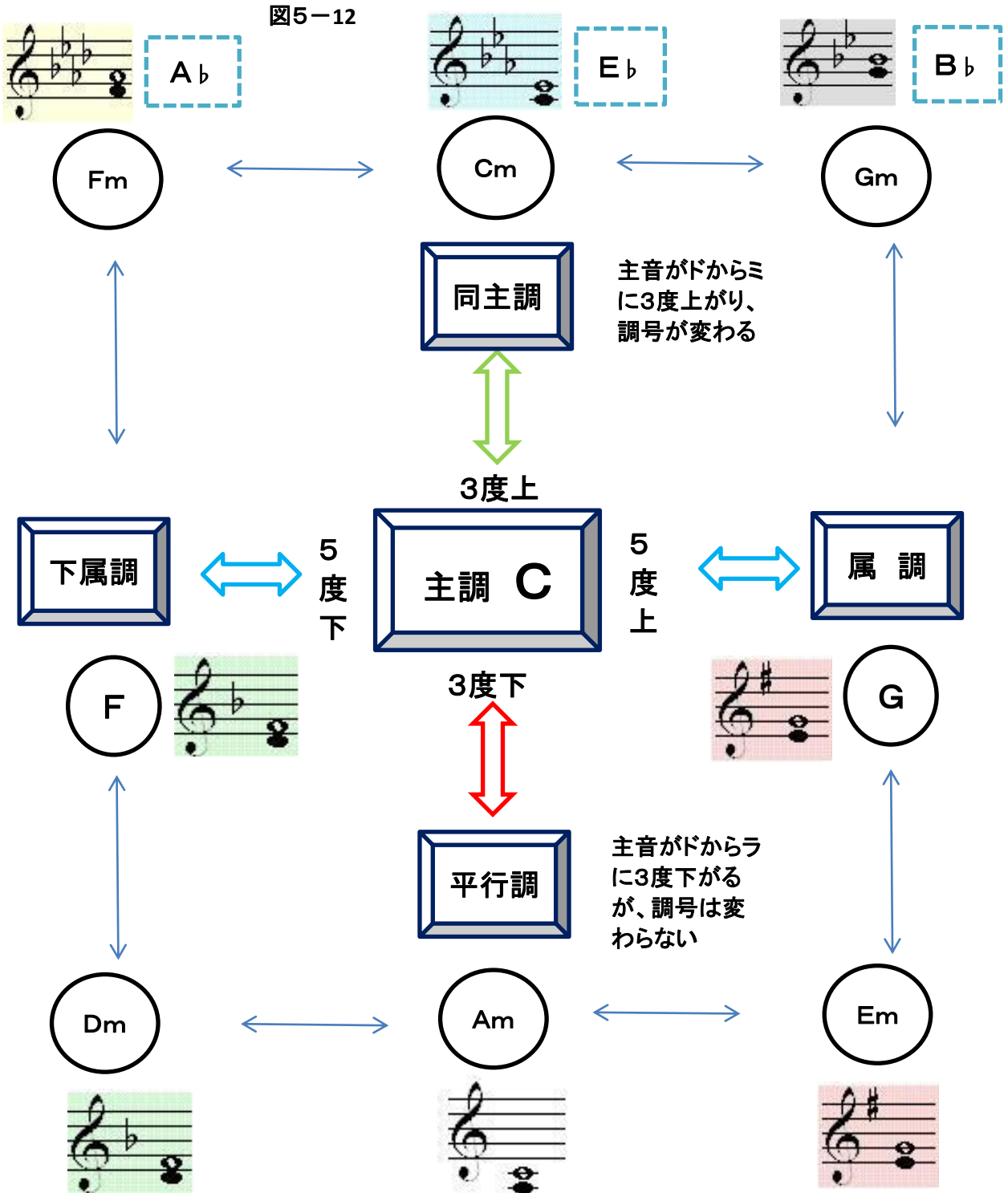
**主調(トニック)** 調を決めたり、ベースとなる根音を基にした調。

**属調(ドミナント)** 主調から5度上の不安定感を持ち、主調に向かって安定する調。

**下屬調(サブドミナント)** 主調から5度下の下行限定進行音ともいわれ、やや不安定な調。

**平行調** 主調と同じ調号で、主音から短3度下の調。移調や転調に使われる。

**同主調** 同じ主音から長3度上の調。移調や転調に使われる。



○は長調の主音、●は短調の主音です



## ダイアトニック・コード① ABC順に並べたもの

ダイアトニック・コードは全音階の上に和音を並べたもので7つの和音で表示します。

(b5)は減音程で5度音が半音少なく、三全音(トライトーン)と呼ばれます。

長音階

図5-13

調名	記号の数	I	II m	III m	IV	V 7	VI m	VII (b 5)
C	—	C	Dm	Em	F	G7	Am	Bm (b 5)
D	#2	D	Em	F#m	G	A7	Bm	C#m (b 5)
E	#4	E	F#m	G#m	A	B7	C#m	D#m (b 5)
F	b1	F	Gm	Am	Bb	C7	Dm	Em (b 5)
G	#1	G	Am	Bm	C	D7	Em	F#m (b 5)
A	#3	A	Bm	C#m	D	E7	F#m	G#m (b 5)
B (Cb)	#5	B	C#m	D#m	E	F#7	G#m	A#m (b 5)
Db (C#)	b5	Db	Ebm	Fm	Gb	Ab7	Bbm	Cm (b 5)
Eb	b3	Eb	Fm	Gm	Ab	Bb7	Cm	Dm (b 5)
Ab	b4	Ab	Bbm	Cm	Db	Eb7	Fm	Gm (b 5)
Bb	b2	Bb	Cm	Dm	Eb	F7	Gm	Am (b 5)

自然的短音階(長音階の6番目が1番目に移動=平行調)

図5-14

調名	記号の数	I m	II m (b 5)	b III	IV m	V m	b VI	b VII 7
Am	—	Am	Bm (b 5)	C	Dm	Em	F	G7
Bm	#2	Bm	C#m (b 5)	D	Em	F#m	G	A7
Cm	b3	Cm	Dm (b 5)	Eb	Fm	Gm	Ab	Bb7
Dm	b1	Dm	Em (b 5)	F	Gm	Am	Bb	C7
Em	#1	Em	#Fm (b 5)	G	Am	Bm	C	D7
Fm	b4	Fm	Gm (b 5)	Ab	Bbm	Cm	Db	Eb7
Gm	b2	Gm	Am (b 5)	Bb	Cm	Dm	Eb	F7
C#m	#4	C#m	D#m (b 5)	E	F#m	G#m	A	B7
F#m	#3	F#m	G#m (b 5)	A	Bm	C#m	D	E7
G#m (Abm)	#5	G#m	A#m (b 5)	B	C#m	D#m	E	F#7
Bbm (A#m)	b5	Bbm	Cm (b 5)	Db	Ebm	Fm	Gb	Ab7

三種類の短音階は別に触れています。

## ダイアトニック・コード ②変化記号順に並べ替える

和音にも#や♭の付く位置に規則性があります。

全音階を基にした変化記号に加えて、構成する音による変化があります。

和音の結びつきは近親調(平行調、属調、下屬調、同主調)の図解も合わせてごらんください。

長音階

図5-15

調号	記号の数	I	II m	III m	IV	V 7	VI m	VII (♭ 5)
C	—	C	Dm	Em	F	G7	Am	Bm(♭ 5)
G	#1	G	Am	Bm	C	D7	Em	F#m(♭ 5)
D	#2	D	Em	F#m	G	A7	Bm	C#m(♭ 5)
A	#3	A	Bm	C#m	D	E7	F#m	G#m(♭ 5)
E	#4	E	F#m	G#m	A	B7	C#m	D#m(♭ 5)
B (C♭)	#5	B	C#m	D#m	E	F#7	G#m	A#m(♭ 5)
F	♭1	F	Gm	Am	B♭	C7	Dm	Em(♭ 5)
B♭	♭2	B♭	Cm	Dm	E♭	F7	Gm	Am(♭ 5)
E♭	♭3	E♭	Fm	Gm	A♭	B♭7	Cm	Dm(♭ 5)
A♭	♭4	A♭	B♭m	Cm	D♭	E♭7	Fm	Gm(♭ 5)
D♭ (C#)	♭5	D♭	E♭m	Fm	G♭	A♭7	B♭m	Cm(♭ 5)

自然的短音階(長音階の6番目が1番目に移動=平行調)

図5-16

短音階	記号の数	I m	II m(♭ 5)	♭ III	IV m	V m	♭ VI	♭ VII 7
Am	—	Am	Bm(♭ 5)	C	Dm	Em	F	G7
Em	#1	Em	#Fm(♭ 5)	G	Am	Bm	C	D7
Bm	#2	Bm	C#m(♭ 5)	D	Em	F#m	G	A7
F#m	#3	F#m	G#m(♭ 5)	A	Bm	C#m	D	E7
C#m	#4	C#m	D#m(♭ 5)	E	F#m	G#m	A	B7
G#m (A♭m)	#5	G#m	A#m(♭ 5)	B	C#m	D#m	E	F#7
Dm	♭1	Dm	Em(♭ 5)	F	Gm	Am	B♭	C7
Gm	♭2	Gm	Am(♭ 5)	B♭	Cm	Dm	E♭	F7
Cm	♭3	Cm	Dm(♭ 5)	E♭	Fm	Gm	A♭	B♭7
Fm	♭4	Fm	Gm(♭ 5)	A♭	B♭m	Cm	D♭	E♭7
B♭m (A#m)	♭5	B♭m	Cm(♭ 5)	D♭	E♭m	Fm	G♭	A♭7

## 第6章のあらまし

ここに取り上げた図解は「ギターに挑戦」のために作成したものです。ですから、おまけにすぎません。

ギター各部の名称、板目の構造、ドレミファの押さえ方、各弦を利用したドレミファの組み合わせなどは初心者のためのものです。

気位だけは人一倍多く、音楽学校に通ったり他人に教えるを請うこともできないわたしが本で調べて、実行してきたことだけです。

楽器に興味がない人には何でこんなものを作ったかと笑われる内容です。

でも、こういうことをしてきたからギターに親しめました。演奏が上手くなるわけではありませんがピアノと異なる楽器がどんなものかを知る参考になれば幸いです。

ギターのイラストはインターネットから借用しています。

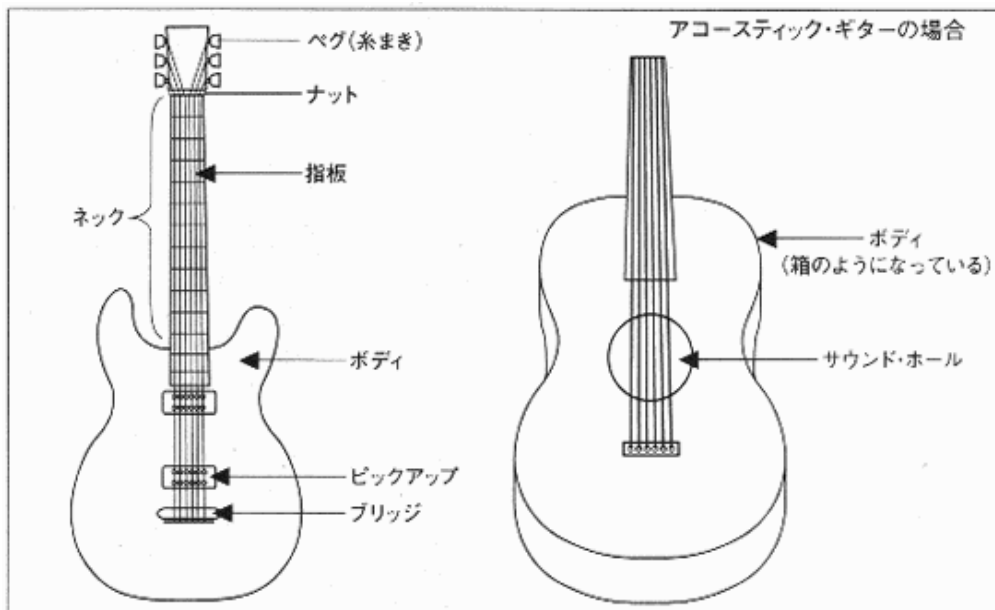




図6-1

音名と階名 : ギターの板目の動き

図6-2

音名	C	C# D♭	D	D# E♭	E	F	F# G♭	G	G# A♭	A	A# B♭	B	C
階名	ド	ド# レ♭	レ	レ# ミ♭	ミ	ファ	ファ# ソ♭	ソ	ソ# ラ♭	ラ	ラ# シ♭	シ	ド

# (シャープ)は半音あげる、♭ (フラット)は半音下げる  
わくにくった部分が異名同音です

板目上の音階表 (異名同音を除いています)

1弦	E	F	G	A	B	C	D	E	F						
2弦	B	C	D	E	F	G	A	B	C						
3弦	G	A	B	C	D	E	F	G	A						
4弦	D	E	F	G	A	B	C	D	E						
5弦	A	B	C	D	E	F	G	A	B						
6弦	E	F	G	A	B	C	D	E	F						
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14

図6-3

## コードダイアグラムの見方

- ギターの弦は細い弦から1弦、2弦・・・6弦(この図で太い線)と呼ばれます
- 左指をまったく押さえない状態を「開放弦」と呼びます
- 開放弦は1弦E、2弦B、3弦G、4弦D、5弦A、6弦Eとなっています
- 下の音階表のとおり開放弦と5フレットは1弦違いで一致しています(3弦のみ4フレット)
- ドはCです。1音階はABCDEFGGの7全音と#やbの付く5半音の12音です

## 音階表

【注】#やbがつくものは外しています

	0	1	2	3	4	5	6	7	フレット
1弦	E	F		G		A		B	
2弦	B	C		D		E	F		
3弦	G		A		B	C		D	
4弦	D		E	F		G		A	
5弦	A		B	C		D		E	
6弦	E	F		G		A		B	

開放弦の並びの語呂合わせ

**家出するなら耳鼻咽喉科**

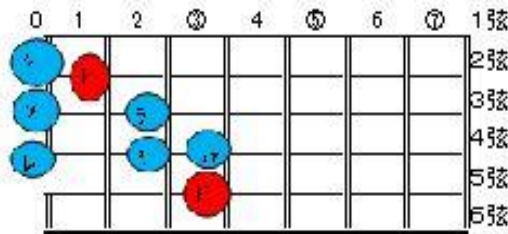
6弦から EADGBE

出典:宮脇俊郎

- チューニングは5弦を開放したAで始めます
- チューナーを使わず開放弦と5フレット(3弦は4フレット)で合わせる方法もあります
- ◎ **1弦と6弦は同じ並びです**

## 音名を知ろう

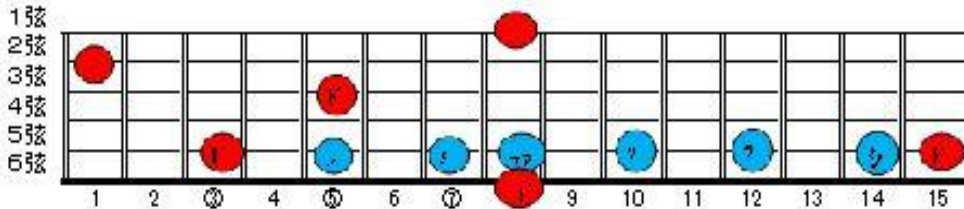
ドレミの位置 この図がコードダイアグラムです。



イタリヤ	英語	日本
ド	C	ハ
レ	D	ニ
ミ	E	ホ
ファ	F	ヘ
ソ	G	ト
ラ	A	イ
シ	B	ロ

- レ(D)とソ(G)とシ(B)は開放弦です
- 開放弦にはド(o)とファ(F)がありません・・・音階表を見直してください
- 各弦でドレミファソラシドは弾けますので試してください

## 各弦でドレミは弾ける



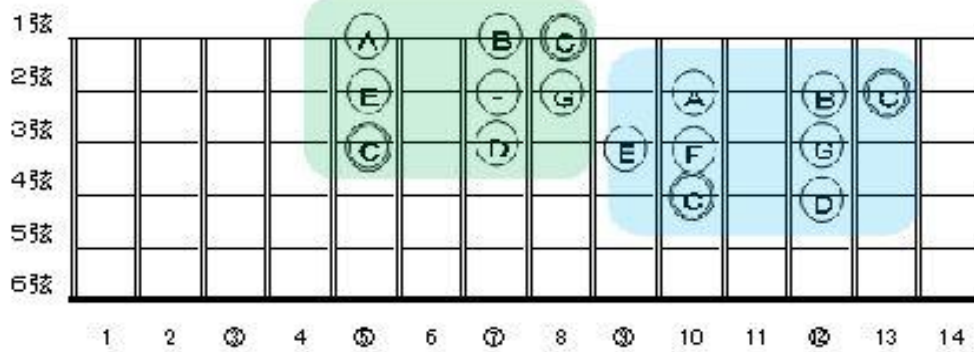
長音階の並びを使う

	ド	全音	レ	全音	ミ	半音	ファ	全音	ソ	全音	ラ	全音	シ	半音	ド
フレット数		2		2		1		2		2		2		1	



ドレミのブロックは2弦が絡むとずれる

図6-4



3~6弦のドレミのブロックは同じ型

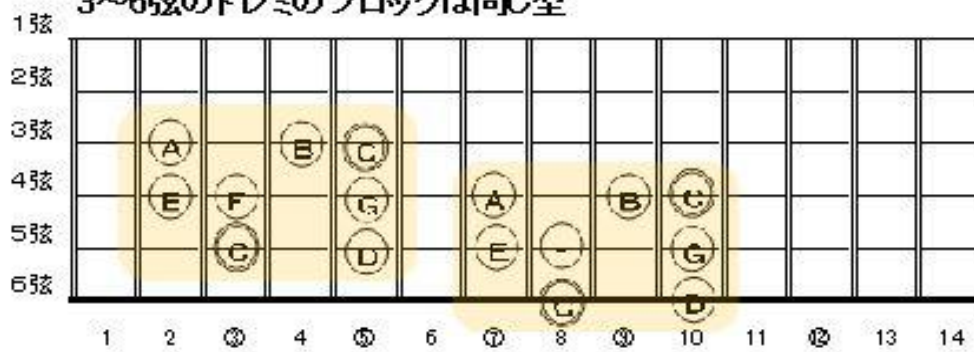
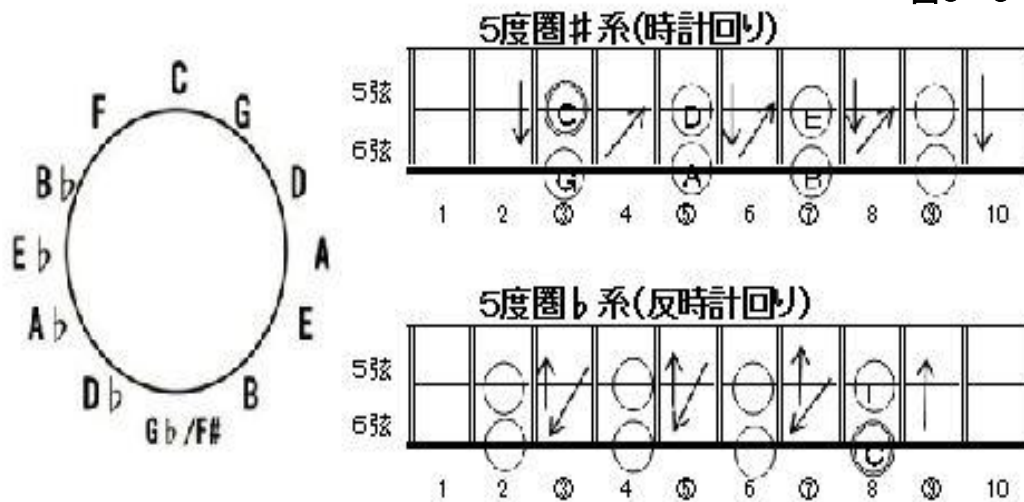


図6-5



主要コード表(メジャー、マイナー)

図6-6

色が付いてるコードだけ覚えれば十分です
